

平成 27 年度 成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

事業報告書

岡山県をモデルとした中核的デニム・ジーンズクリエイター地域版学び直し教育プログラム開発と実証



目 次

第1章 事業概要.....	5
1. 事業概要.....	5
2. 事業の内容等	7
2-1. 事業の目的・概要.....	7
2-2. 事業の実施意義や必要性について.....	7
2-3. 前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性.....	10
2-4. 事業の成果目標.....	11
2-5. 事業の実施内容.....	12
2-6. 事業成果及び事業終了後の方針(成果の活用、継続性・関連性、発展性 等)	14
第2章 調査	16
1. 海外デニム・ジーンズ生産地調査	16
第3章 育成人材像	23
教育カリキュラム・履修モデル	23
専門学校教育領域	23
モデル・カリキュラム基準	23
積上げ式学習システムの構築.....	24
育成を目指す人材像	25
第4章 実証.....	27
1. ・産地コラボレーションの実施.....	27
1. プロジェクト概要.....	27
2. プロジェクトのコンセプト	31
3. 授業内容	32
4. 評価・検証.....	39
5. まとめ.....	53
6.産地コラボレーション実証講座評価	54
第5章 次年度以降の取組.....	57



第1章 事業概要

1. 事業概要

事業名：岡山県をモデルとした中核的デニム・ジーンズクリエイター地域版学び直し教育
プログラム開発と実証

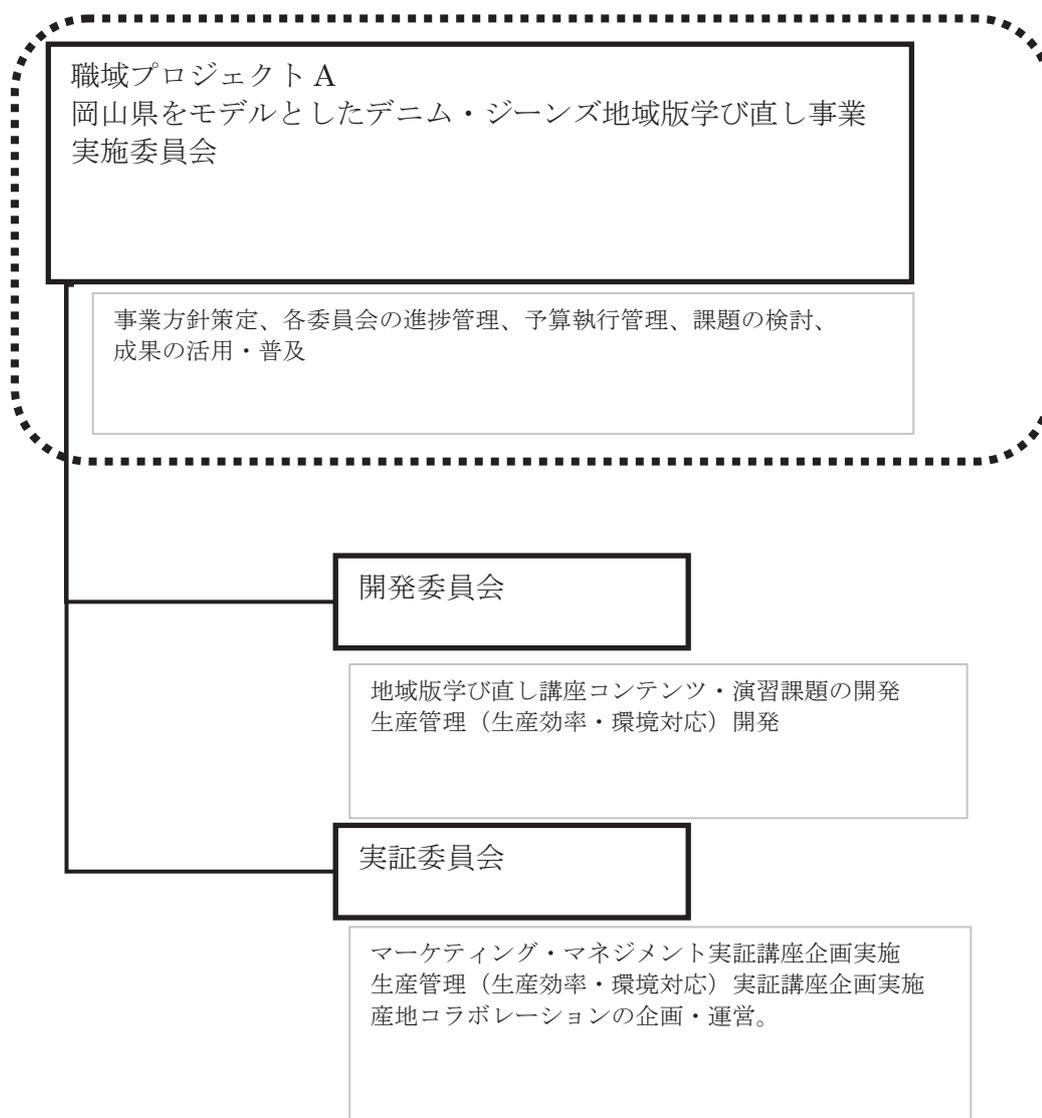
区 分：職域プロジェクト

所 属：IT分野産学コンソーシアム

構成機関

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校	実施・開発・ 実証	岡山県
2	学校法人山本学園 専門学校山形 V.カレッジ	実施	山形県
3	倉敷ファッションカレッジ	実施・開発	岡山県
4	久留米大学 文学部	実施・実証	福岡県
5	中国短期大学	実施・実証	岡山県
6	カイハラ株式会社	実施・実証	広島県
7	美東有限会社	実施	岡山県
8	有限会社 馬野	実施	岡山県
9	有限会社繊維流通研究会	実施・開発	大阪府
10	倉敷ファッション研究所	実施・開発	岡山県
11	日本ジーンズ協議会	実施・開発・ 実証	岡山県
12	岡山県アパレル工業組合	協力・助言	岡山県
13	有限会社ザ・ライスマウンド	実施・開発・ 実証	東京都
14	一般社団法人全国専門学校情報教育協会	実施	東京都

事業の実施体制図(イメージ)



2. 事業の内容等

2-1. 事業の目的・概要

①目的・概要

アジア新興国等の生産技術の向上により、繊維製品の国際的な競争が激化している。ジャパンデニム・ジーンズの競争力を維持・発展するため、新たなグローバル戦略の構築が求められている。本事業は、国内デニム・ジーンズ生産拠点である岡山県をモデルに産業界の求める中核的専門人材養成の地域版学び直し教育プログラムの調査研究・開発・実証を行い、中核的デニム・ジーンズクリエイターの養成を推進する。

②養成する人材像

日本のものづくり産業としてのデニム・ジーンズアパレルが、新たな価値を創造し、進展する国際分業体制でのポジションと期待される役割を担うことのできるデニム・ジーンズクリエイター
※職業人としての知識・能力・素養、服飾系専門知識・技術、デニム・ジーンズ専門知識・技術、マーケティング力、マネジメント力、ものづくり現場力等の総合力を有する人材

2-2. 事業の実施意義や必要性について

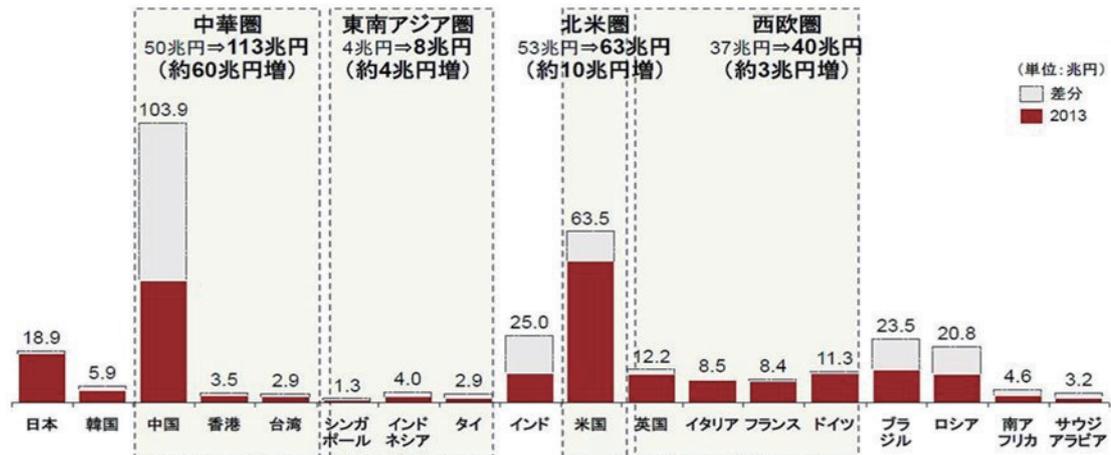
① 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

アジア新興国等において CAD/CAM 等の生産工程のデジタル化が進展し、繊維・アパレル製品の高品質の生産が可能となった。日本のデニム・ジーンズ産業は、生産工程の付加価値や品質・価格の競争力が低下し、企画・開発等、生産工程以外から付加価値の創造が必要になっている。

また、従来国内需要を中心に戦略を展開していた日本のアパレル産業は、アジア新興国の経済成長の結果、アジア新興国や西欧圏をマーケットとした製品を提供する必要性が増加し、グローバル化に対応した新たな戦略構築が必要となっている。

ファッション市場規模（出展：平成25年度クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業調査報告書）

- 中華圏は 2020 年までに 60 兆円拡大し、113 兆円の世界最大の市場へと成長
- 東南アジア圏は大きく成長するも 2020 年時点で 8 兆円程度にとどまり、規模は限定的
- 北米圏は堅調に成長。2020 年までに 10 兆円拡大し、63 兆円の市場規模に
- 西欧圏は 2020 年時点で 40 兆円と一定の市場規模があるものの、成長は限定的



岡山県は、アパレルほか織布、染色加工、縫製など川上から川下までの業種が集積している地域であるが、アジア新興国等の台頭により、生産工程の海外移転（空洞化）、安価な輸入製品の増加、商社への依存度が高く海外の販路開拓が進んでいないなど多くの課題を抱えている。課題を解決するためには、企画・開発工程における差別化が必要であり、多段階の工程のそれぞれの強みを全体の強みに結びつけ、ブランド力を構築できる人材、また、拡大するアジア新興国を市場としたビジネスをクリエイティブな視点から展開できる人材が求められている。

このような状態は、日本のアパレル生産拠点各地域における共通の特徴である。岡山県デニム・ジーンズ産業をモデルとしたデニム・ジーンズクリエイターの地域版学び直し教育プログラムの整備は、共通の課題を抱える日本の生産地域でも活用が期待できる有用な取組みである。

②取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

国内市場の停滞・縮小、海外の市場規模の拡大傾向を受け、今後、日本のアパレル産業が成長してゆくためには、海外への展開が不可欠である。しかしながら、これまで国内市場に依存していたため、繊維・染色加工・織物・縫製・アパレル・流通・小売等の工程の機能分画が進展し、日本のアパレル産業の海外進出は進んでいない状態である。

海外進出における課題として、国内市場を中心とした思考の継続や国内事業モデルやテストの直輸出、輸出による関税・物流コストや小売との取引習慣の違い、現地を知る人材の不足、市場ニーズ・習慣の情報不足等が挙げられている。

これらの課題を解決し、国際的な分業化が進む中で、企画・開発工程での強みを構築するとともに、繊維・染色加工・織物・縫製・アパレル・流通・小売等の各工程の強みを総合力

として構築し、国際分業体制の中での日本のアパレル産業のポジションを設計することが求められている。

本事業は、岡山県をモデルとして、デニム・ジーンズ産業に求められる中核的専門人材養成の地域版学び直し教育プログラムを整備するプロジェクトである。

具体的な取組み

- ・マーケティング・マネジメント力の養成講座の実施
- ・海外のジーンズメーカー競争力の調査
- ・産地コラボレーションによるものづくり現場力養成
- ・本プログラムの各地域への展開の実証

上記取組みを通して、服飾系専門知識・技術を有する人材に、デニム・ジーンズの知識やマーケティング、マネジメント力、ものづくり現場力を付加し、産業界の求める中核的デニム・ジーンズクリエイターの養成を推進する。

多くのデニム・ジーンズ産業の集積する岡山県には、日本ジーンズ協議会をはじめとして業界を代表する団体や企業があり、円滑な企業連携が可能であり、本取組みを有効に普及・推進することが期待できる。

また、本事業の成果をベースに、各地域への学び直し教育プログラムの展開・実施、現役技術者の知識・能力の更新、子育てを終えた女性を対象とした講座等への活用により、あらたな雇用の創造も期待される。

これからの岡山県デニム・ジーンズ産業、日本のアパレル産業に求められる、新たな価値を創造し、進展する国際分業体制でのポジションと期待される役割を担うことのできる中核的専門人材の育成は、産業界にとって最も重要であり、必要な取組みである。

③取組実施にあたっての平成 26 年度までに実施された職域プロジェクト等の成果の活用方針、方法等

昨年度の成果である「マーケティング教材」「マネジメント教材」を活用し、講座を実施するためのコンテンツ及び演習課題を作成し、講座を実施・実証することにより、デニム・ジーンズクリエイターの養成を推進する。また、各地域や企業研修、専門学校正規課程への導入の促進を図る。

昨年度、エドウィン秋田工場の調査で明らかとなった生産効率や環境対応について、新たな教材を開発整備し、国際化に対応した中核的専門人材の養成を行う。

昨年度、久留米絨の商社、工房の調査により、産地のブランド化や販路の形成について有用な取り組みがあり、岡山県の産地との違いや新たな考え方、ものづくり現場力を養成するため、事業に参画する久留米大学と相互に産地コラボレーションを実施し、教育プログラムの実証を通して、人材の育成を行う。

2-3. 前年度までの取組概要・成果と本事業との継続性

(平成26年度事業)

・取組概要

世界の市場で評価の高いジャパンデニム・ジーンズのブランド構築やグローバルなビジネスの展開のできるクリエイター養成の教育プログラムの開発・実証を通して、産業界の求める人材育成のための新たな学習システムの基盤整備を目指した。このため、本年度の事業は、デニム産業が盛んな岡山県をモデル地区とし、産業界の求める人材育成のための調査研究・開発・検証および学習システム構築を行い、デニム・ジーンズ産業の中核的クリエイター養成した。

・事業成果

○活動指標 (アウトプット)

- 1 調査 国内産地視察 2箇所
- 2 教材開発 2科目
- 3 実証講座 参加数 68名
- 4 協力者、協力機関数

本事業への有識者、業界団体等の協力機関数の指標。

協力者 5名、協力機関 2団体。

○期待される成果実績 (アウトカム)

- 1 分野における社会人学習者の受け入れ数 14名
- 2 新たな評価体制に参加する機関数
企業 2社、 団体 1団体

開発教材による本校学生を対象とした講座実施、及び参画団体・企業の協力による社会人を対象とした講座実施を通し、地域版学び直し教育プログラムの実証をした。久留米、秋田の産地調査、シンガポールの海外教育視察を通し、産地・市場の現状と海外の教育の現状を取りまとめた。

- ・本年度事業との継続性・関連性 (成果を本年度の取組にどのように活用するのか)

昨年度の成果である「マーケティング教材」「マネジメント教材」を活用し、講座を実施するためのコンテンツ及び演習課題を作成し、デニム・ジーンズクリエイターの養成を推進する。また、各地域や企業研修、専門学校正規課程への導入の促進を図る。

昨年度、エドウィン秋田工場の調査で明らかとなった生産効率や環境対応について、新たな教材を開発整備し、国際化に対応した中核的専門人材の養成を行う。

昨年度、久留米絨の商社、工房の調査により、産地のブランド化や販路の形成について有用な取り組みがあり、岡山県の産地との違いや新たな考え方、ものづくり現場力を養成するため、事業に参画する久留米大学と相互に産地コラボレーションを実施し、教育プログラムの実証を通して、人材の育成を行う。

※平成26年度の成果の公開状況

成果の周知のため、データのHPでの公開、関係教育機関 179 校、関係企業等 198 社へ郵送配布

Web サイトアドレス http://www.jenc.co.jp/001/h26_cdc_denim/

※平成26年度実績報告書（収支精算書除く）を添付します。

2-4. 事業の成果目標

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)

○期待される活動指標(アウトプット)

- 1 調査 海外産地視察 1国 3箇所以上
- 2 講座コンテンツ、演習課題の開発 2科目
- 3 教材開発 1科目
- 3 実証講座 2講座
- 4 産地コラボレーション 1か所

○期待される成果実績(アウトカム)

- 1 社会人講座、専門学校教育への導入 数 4校
- 2 実証講座 参加数 50名
社会人学習者の受け入れ数 20名
- 3 新たに参加する機関数
企業 4社、団体 2団体

2-5. 事業の実施内容

① 会議（目的、体制、開催回数等）

・実施委員会

目的 : 事業方針策定、各委員会の進捗管理、予算執行管理、課題の検討、
成果の活用・普及、海外デニム・ジーンズ生産地調査企画

体制 : 専門学校 3校、大学 2校、企業 6社、業界団体 2団体

開催回数 : 3回（9月、11月、1月）

・開発委員会

目的 : 地域版学び直し講座コンテンツ・演習課題の開発
、生産管理（生産効率・環境対応）開発

体制 : 専門学校 2校、企業 2社、業界団体 2団体

開催回数 : 4回（8月、10月、12月、1月）

・実証委員会

目的 : マーケティング・マネジメント実証講座企画実施
生産管理（生産効率・環境対応）実証講座企画実施
産地コラボレーションの企画・運営。

体制 : 専門学校 2校、企業 2社、業界団体 2団体

開催回数 : 4回（9月、11月、1月、2月）

② 調査等（目的、対象、規模、手法、実施方法等）

・海外デニム・ジーンズ生産地調査

目的 : 昨年度の日本国内のデニム・ジーンズ生産技術の調査により明らかになった生産技術や環境への対応はこれからの人材育成に有用な調査であった。本年度事業では、西欧圏へのデニム・ジーンズの最大の生産拠点であるトルコのデニム・ジーンズ工場を視察調査し、生産技術や体制、海外市場へのビジネス展開等の取組を調査し、日本に不足する知識・技術の教育プログラム整備に活用する。

対象、規模 : トルコ共和国 ジーンズ関係の工場 5箇所程度

手法 : 現地訪問でのヒアリング

実施方法 : 委員 4名で実施

③ モデルカリキュラム基準、達成度評価、教材等作成（目的、規模、実施体制等）

・地域版学び直し講座コンテンツ・演習課題の開発・整備

目的 : 昨年度事業の成果のマーケティング・マネジメント教材をもとに講座に使用する講座コンテンツ・演習課題を整備する。演習を通して、学習者の理解を深めるとともに、グループワークを通してコミュニケーション力等の素養養成にも役立つものとする。 また、各地域や企業研修、専門学校正規課程への導入の促進を図る。

規模 : マーケティング 30時間、マネジメント30時間の講座を想定した講座コンテンツと演習課題

実施方法 : ④の実施結果および②の調査結果等を踏まえ、開発委員会で企画をまとめ、開発は、委員参画の企業に依頼する。

・生産管理（生産効率・環境対応）教材の開発

目的 : 昨年度事業の成果を踏まえ、学び直しの科目の教材を開発する。また、受講者の達成度を評価するためのテストの開発を行う。

規模 : 30時間相当の講座を想定したテキストと達成度テストを作成

実施方法 : ④の実施結果および②の調査結果等を踏まえ、開発委員会で企画をまとめ、開発は、委員参画の企業に依頼する。

④ 実証等（目的、対象、規模、時期、手法、実施方法等）

・マーケティング・マネジメント実証講座の実施

目的 : 開発する地域版学び直し講座コンテンツ・演習課題の領域・範囲・レベルを検証し、内容を精査する。

対象、規模 : デニム・ジーンズ関連企業（3社程度）の社員、本校学生 20名程度

時期 : 10月 4日間（1日4時間）

手法 : 講義および演習

実施方法 : 協力企業・関係団体（日本ジーンズ協議会）からの講師派遣による実証講座の実施

・生産管理（生産効率・環境対応）実証講座の実施

目的 : 開発する生産管理（生産効率・環境対応）教材の領域・範囲・レベルを検証し、内容を精査する。

対象、規模 : 本校および協力専門学校学生 20名程度

時期 : 11月 3日間（1日6時間）

手法 : 講義および演習
実施方法 : 協力企業・関係団体（日本ジーンズ協議会）からの講師派遣による実証講座の実施

・産地コラボレーションの実施

目的 : 本校及び久留米大学学生を対象としたデニム・ジーンズ産地と久留米産地のコラボレーション演習を実施する。各産地の企業から企画提案型のプロジェクトを行う課題を出していただき、学生がチームを組んで企画提案をまとめる。産地コラボレーションのモノづくり現場力養成について有効性について実証し、人材養成に活用する。

対象、規模 : 本校及び久留米大学学生 各20名程度
参画企業 岡山・久留米 各1社（合計2社）

時期 : 10月～12月

手法 : 説明会およびプロジェクト演習

実施方法 : 産地企業に協力を依頼
産地企業からそれぞれの課題を提案いただき、チームで企画案をまとめる実施に当たっては、参加学生がそれぞれの産地の特徴や商品情報を知る必要があることから、工場等の現場にて事前説明会を実施する。

2-6. 事業成果及び事業終了後の方針(成果の活用、継続性・関連性、発展性等)

(事業成果物)

※本事業により作成等される成果物について、個別に列記すること

※前年度までに関連の成果物がある場合は、当該成果物の関連性について具体的に明記すること

①地域版学び直し講座コンテンツ・演習課題(100頁 700部)

昨年度事業の成果のマーケティング・マネジメント教材をもとにした講座コンテンツ・演習課題。

②生産管理(生産効率・環境対応)教材(200頁 700部)

昨年度事業の工場視察結果を踏まえ、今後の必要知識・技術を学習する教材を開発

③事業報告書(120頁 700部)

(成果の活用等)※上記成果物の活用方法等について、個別に列記すること

①成果の周知のため、データのHPでの公開、

服飾系専門学校 200校、ファッション関連企業等 400社へ郵送配布

-
- ・平成28年度以降の社会人・女性対象の講座に活用
 - ・他地域の専門学校等の講座実施、正規課程への導入に活用を促進する
 - ・全国版モデル・カリキュラム基準にフォードバックし精査する

②成果の周知のため、データのHPでの公開、

服飾系専門学校 200校、ファッション関連企業等 400社へ郵送配布

- ・平成28年度 社会人・女性対象の講座に活用 また、本校正規課程教育教材に導入を予定

- ・協力専門学校を通して他地域の社会人教育の活用できるか検証をする

③成果の周知のため、データのHPでの公開、

服飾系専門学校 200校、ファッション関連企業等 400社へ郵送配布

成果の普及に活用する。産地コラボレーションの展開に活用する

第2章 調査

1. 海外デニム・ジーンズ生産地調査

目的:世界的な評価が出てきているトルコのデニム産業並びに、東西の交流地点であるイスタンブールのファッション状況と企業と教育機関の専門学校の取り組み例を視察し今後の地域の産業と人材育成の在り方を世界的な目線で考える。

訪問先:トルコデニムテキスタイル企業 ISKO、デニム加工企業、デニムブランド企業、ファッション専門学校、デザイン事務所等

視察:大型 SC 高級ブランド品 SC、デニム専門店

日程:10月31日 関西空港発

11月1日 イスタンブール着

到着後市内市場調査、

大型ショッピングモール CEVAHIR など市内店舗視察

11月2日 SANKO 社 ISKO Division 訪問 イスタンブールより片道3時間ブルサ近郊
(Organize Sanayi Boigesi Cadde 16400 inegol-Bursa /TURKEY)

11月3日 午前イスタンブール ファッションアカデミー訪問

午後 CAK GROUP LITTLE BIG 訪問

(Gunslı Mimar Sinan Cad.NO3 Bagcıl Istanbul TURKEY)

11月4日 午前 ISKO Creative ROOM 訪問

(Asmalimescit Cad no:16 beyoglu-Istanbul/TURKYE)

午後 市内ジーンズショップ、ショッピングモール視察

深夜イスタンブール出発

11月5日 関西空港着

視察内容:11月2日 ISKO 本社訪問

Fatih KONUKOGLU 社長始め 副社長、執行役員、マーケティング役員、セールス役員など10名近い方々に歓迎された。ISKOJAPAN 山崎取締役、岡山事務所の片山氏も同行。 ISKO は年間3億メートル生産し、開発商品25,000点がストックされている世界でNO1のデニムメーカーである。(日本のカイハラは年間5000万メートル程度)従業員は4000人、本社400人工場3500人 開発部門12名 2か所(イタリア・イスタンブール)がある。デニムを手掛けて15年 紡績からロープ染色一貫工場 色のコントロールは36色の色分けの基準としている。工場は日本の「カイゼン」計画を取り入れており、

品質管理も徹底されていた。また在庫の倉庫管理もオートメーション化が進んでおり、世界で一番の施設と自負していた。ISOK はトルコの SANKO 財閥の一つであり、世界の 30 か所に事務所を設け 販売先は 100 か国 ここ数年ストレッチ素材では業界の中のけん引役となっている。2 年ほど前から始めた世界のファッション専門学校とのジョイント企画は 17 校になってきた。また世界からインターシップ生を企業の中にも取り入れ 産学協力体制を ISKO ブランド化の戦略の一つとして取り入れている。

ショールーム:商品説明 質疑応答過去の生地から作られた製品が多数並び、コンセプト別に置かれている。会社の紹介をする DVD 施設 デニムの味わいある什器、インテリアで構成され商談・会議ができる大きな施設であった。

工場見学:紡績から 染色 織布 仕上げ 検品 倉庫での管理の流れを見せてもらう 工場各所に 日本のトヨタ方式の“ KAIZEN 5S ” を掲げ整理整頓がきちんされた、大変きれいな工場内部であった。品質の向上また効率化の中でコンピューターでの管理が徹底されていた。特に驚いたのは職布部門では 2 階建ての建物の上階で職布そのまま階下で検品並びにビームに巻き取るスピード・合理化のアイデアは社長のデザインとの事であった。

マーケティング部門:パワーポイントにて会社紹介。マーケティング部門の活動・ブランドの紹介をうける。

加工工場見学: 同じ工業団内にある提携工場の見学イタリア資本の加工工場見学 前処理、サンドブラスト薬品での加工、レーザー加工も最新のものまで見せてもらう ちなみにこの工場はイタリアで岡山の豊和(株)から技術協力を受けていた会社であった。加工に関しては児島の企業のレベルは世界的な評価があると言える。

ISKO メンバーと記念写真 ISKO 工場全景 (社長室より)



11 月 3 日 イスタンブール市内 IAD ISTANBUL MODA AKADA AKADEMISI
ISKOのデザイナーはこの卒業生であった。ISKOからはデニム教材を提供している

ISTANBUL MODA AKADA AKADEMISI は原宿、銀座にちかい環境の中 生徒数 300 人コースはマスター2 年間とショートの夜間があり 50%が高校卒業後入学 学校ができて 10 年 卒業生9人が活躍、中にはイスタンブールコレクション(5年前からベンツサポート)にでるデザイナーを育てた。海外からの留学生もいてカリキュラムは パターンアカデミックコースはイギリスの学校と提携 授業内容も共有化 優秀な学生は卒業後もコレクション等のサポートも行う。壁面には業界の年間スケジュールが記載され生徒に目標を持たせる事がわかりやすく掲載されていた。縫製。パターン デザイン実技を見せてもらう。図書室、材料室 3D プリンター スワロスキー 社 からの高価な材料提供も受けていた。授業料は年間 100 万円。イスタンブールには 専門学校 3 校、エスモード等 あり。6 人の専任教授と夜間はフリーランスの先生が教えている。学校前にて



11 月3日 LITTLE BIG 訪問 Fatih Cakoglu 氏と妹に話を伺う

イスタンブール郊外 本社工場の他 100km先に大きな工場があり直営店舗もあり。

ジーンズの他トップス等製品仕入れ、海外での販売も行いはじめた。東京の新宿に POP ショップ展開計画、BEEMS の OEM も行っているようだ。トルコのジーンズブランドの中で代表的なブランドであった。

企画の人材は 世界から集めている東京の桑沢デザイン専門学校の卒業生も一時期いたようだ。デザイン室 裁断 縫製 サンプルは年配の男性が多く働く、施設内にスタジオがありここから直営店に向けてビデオ、音楽等流していた。併設直営店:ライトオン風アメリカカジュアルジーンズプライス 3000 年から 4000 円前後のボリュームゾーンブランドだった。



LTD 本社、インターネット放送局

11月4日 ISKO イスタンブールデザイン事務所 Creative .ROOM 訪問

EMRE SELCUK 氏に話を伺う デザイナー2名 マーケティング担当4名 おしゃれな趣のある建屋の中2年前に開設 世界各地からサンプル購入1回100万円年6回、日本のキャピタルの商品が多数コレクションされていた。

その他2人の契約者がデニム関連を世界から情報を集める事もしているとの事、情報が多数集めていることが理解できた。デザインルーム記念写真



11月4日 市場調査 世界的にデニムブランドとして出てきた MAVI SHOP 視察

サンプル購入 ESOK 社の新しい素材を使ったスパーストレッチのハイライズ スパースキニー ソフトでライトオンス 伸び率20%? デザイン、縫製仕様、付属関係もレベル高い商品であった 170TR は(6800円代)は競争力があると思う。高級な SC デーゼル 30000円~40000円、カルバンクライン ジーンズは359RTGAP 179TR また高級百貨店のセレクト部門では Jブランドではレザー風加工のブラックは10万円の商品も並ぶ カジュアル部門では AEROPOSTAL 等では59.59TRも目立つ SC の方の中ではアップルストアーが大きなスペースの2階府口ガーが印象的であった。VITONをはじめとするスーパーブランドがほとんど全て大きなフロアでの展開をしていた。

ショッピングモール内セレクトショップ



(資料)

「トルコの繊維産業の現状と将来展望」

ジェトロイスタンブール 事務所 中島俊博氏レポート 2006 年抜粋

- 1 中国製品に奪われる市場シエア2005年に WTO が繊維製品の輸入割当制度を撤廃して中国製品に浸食され続けられている トルコの繊維産業は、世界市場での生き残りを賭け生産コストの削減や高付加価値化、ブランド化など新たな戦略の必要に迫られている。

繊維製品の輸出は輸出総額の25.9%を占め 繊維産業は GDP の7.5%工業生産の全体の19.9% 製造業の雇用の23.9%を占めている。アパレル輸出ではアパレル輸出では世界第4位 EU 向け第2位)テキスタイルでは第10位 EU 向け(同2位である)。

競合で対米輸出が減少05年

WTO は 05 年 1 月からは中国などの繊維大国と自由競争となった。05 年の繊維製品輸出は 7.3%UP7億5080万ドル繊維製品65%が EU 向け。今後はロシアに注目している。

価格競争を脱し、高付加価値化を目指す

トルコの繊維業界は、欧州の業界を見習い、最新鋭の設備の投入、技術革新、デザイナーの育成、国際見本市における宣伝活動を通じてトルコ製品の品質化、高価格化を図りたい意向政府も貿易庁主導で「テュルクオリテー」政策が打ち出され認証制度をもうけた。

- 2 コスト削減に向けて周辺諸国へ生産拠点を移転

1980年約30億ドルの輸出が 2005年 7312億ドルと25年間で 243倍となり トルコの基幹産業となった。製品化も1880億ドルとなった。

要因は原材料からファスナー付属まですべて国内でできあらゆるデザインファッション性に対応できる。若手の勤勉な労働力が豊富 ほぼ繊維企業が ISO 9001 ISO9002 を取得国際的な品質基準に適合している。欧州への陸上運送6日から

海上運送でも10日から11日の納品ができる。中国からの輸出の半分である、人件費の高騰、労働生産性の低下 電気関係自動車産業が設備投資をして効率化を図り生産性があがり繊維関連の生産性が低下エネルギー価格と原材料の輸入依存もコスト削減のネック

トルコは世界第6位の綿花生産国国内での供給ができていない米国からの輸入に頼っている。合繊関係も30%から40%輸入をしている。

- 国際的に認められつつあるトルコ産デニム
- テキスタイルでは04年の綿織物生産が前年比 4.4%増の19億4600万 m
化学繊維織物が 4.0%増の6億4210万m、毛織物が3.1%増の 5740 万mだった。こうした織物生産はイスタンブール、ブルサ、アダナ、カフラマンマラシュ、カズィアンテプ、デニズ

リ、イズミル、テキルダア、カイセリ、ウシャク各県で行われている。環境規格である「エコテックも企画 100」も取得している

企業も多い。

- 綿織物生産の訳 30%はデニムが占める。 マーヴィ(Mavi)リトルビッグ(LITTLE BIG)コリンズ(Collins)等、トルコジーンズ・ブランドの国際的な知名度が上がるとともに、トルコ産のデニムの質の良さも認められるようになってきた。05年度のジーンズ輸出は衣料品全体の28%を占め、前年比28%増と他の衣料品を凌ぐ好調ぶりを見せている。デニム生産ではサンコ財閥の傘下のイスコ(ISKO)が有名で、トルコ製造業のトップ500(ISO500)でも第79位に入っている。
- トルコの工業用マシンはほぼ100%輸入されており、輸入相手では日本が3割を占めている。2位は中国、3位はドイツでこの3カ国からの輸入が全体の7割を占めるトルコ統計機構(TUIK)品質を重要する大手アパレル工場では日本製のマシンの評価が高く、低価格が売り物の中国製品と都は顧客層が分かれている。
ブラザーの江口所長はトルコ産は中国やインドといった縫製業の盛んな国と比べてコストが高く、価格以外で競争力をつけることが重要になってきている。
具体的には縫製の良さ、少量多品種対応、短納期、ブランド力(デザイン)構築であり、日本メーカーはこれらの需要に合致した製品やサービスを提供することで今後もシェアしていく。トルコにはブラザーの他 現在 JUKI が駐在事務所を置いている。

最新情報 イスタンブール繊維。衣料品輸出組合 ITKIB HO より

Turkish Clothing industry exported a total value of **15.7 billion us \$** in 2011

There are more than 29,000 clothing manufactures in Turkey.

Total Export (1000 \$)134,954,362 **Textile Export(1000 \$) 7,709,701**

2011 Annual Textile Export of Turkey Share of Textile in Total export 5.7%

ロシア 13% イタリア 10.1% ドイツ 5.9% 英国 3.8% ポーランド 3.7%

ルーマニア 3.7% 米国 3.1% ベルギー3.1% エジプト 2.7% 10 か国 53.4%

●日本のデニム生産量 倉敷ファッションセンター2013年 報告書(松本専務著)

デニム生地(推定)

デニム生地 世界生産総量(年間)25億 yd 1yd=0.9144m

⇒ ジーンズ 20億本(相当)

主要生産国(海外)イスコ(トルコ) 2億 yd

中国 3~4億 yd

(国内)クラボウ ※世界 3000万 yd

日清紡 1500万 yd

カイハラ 4200万 yd

※ デニム生地、ジーンズ生産数の正確な数字は把握出来ていないのが現状 本数に関しては現在 23億本には達していると思われる。デニム生地に換算すると約 30億メートルと思われるyd換算では 32.69万 Ydとなる。その根拠はデニム産業が年間 3%の Up が続いていると思われる。上記のデータがそれぞれの 3年から 5年前のものであるとすると 30億mに近いものと思われる。

以上の数字を今回訪問した ISKO ブランドは 年間生産 3億 m であるとの事からすれば 市場の 10%の占有率である。

(所感)

短期間でのトルコ視察であったが、評価が出ているトルコデニムの実態を理解した世界的な目線での状況視察ができた事に感謝します。

国内での産地のもの作りの在り方・マーケティング思考の重要性、そして(人材育成)教育と産業の双方向の協力体制がスピードを持って対応しない限り世界的な戦いには勝てないのではないかと改めて感じました。

第3章 育成人材像

教育カリキュラム・履修モデル

専門学校のエ育領域

分野	基礎能力			専門技能			実務能力				ヒューマンスキル					
	ドローイング	パターン	基礎造形	素材・色彩・商品知識	デザイン画	工業パターン	立体造形	マテリアル	クリエイション	マーケティング	マネジメント	リーダーシップ	コミュニケーション能力	マインド	理論的思考	行動特性
ディレクター	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5
リーダーレベル	4	4	4	4	2	2	2	4	4	4	4	5	4	4	5	5
標準レベル	3	3	3	3	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3
新卒・未経験者	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	1	2	1	1	2	2

モデル・カリキュラム基準

デニム・ジーンズクリエイターの基礎となる知識・技術・素養及び職業人として必要な専門知識・技術、業務を遂行する能力の修得を可能とするため、産学連携の下で、デニム・ジーンズアパレル業界においてグローバルな視野と実践力、創造力のあるクリエイターの中核的専門人材の育成を推進する。

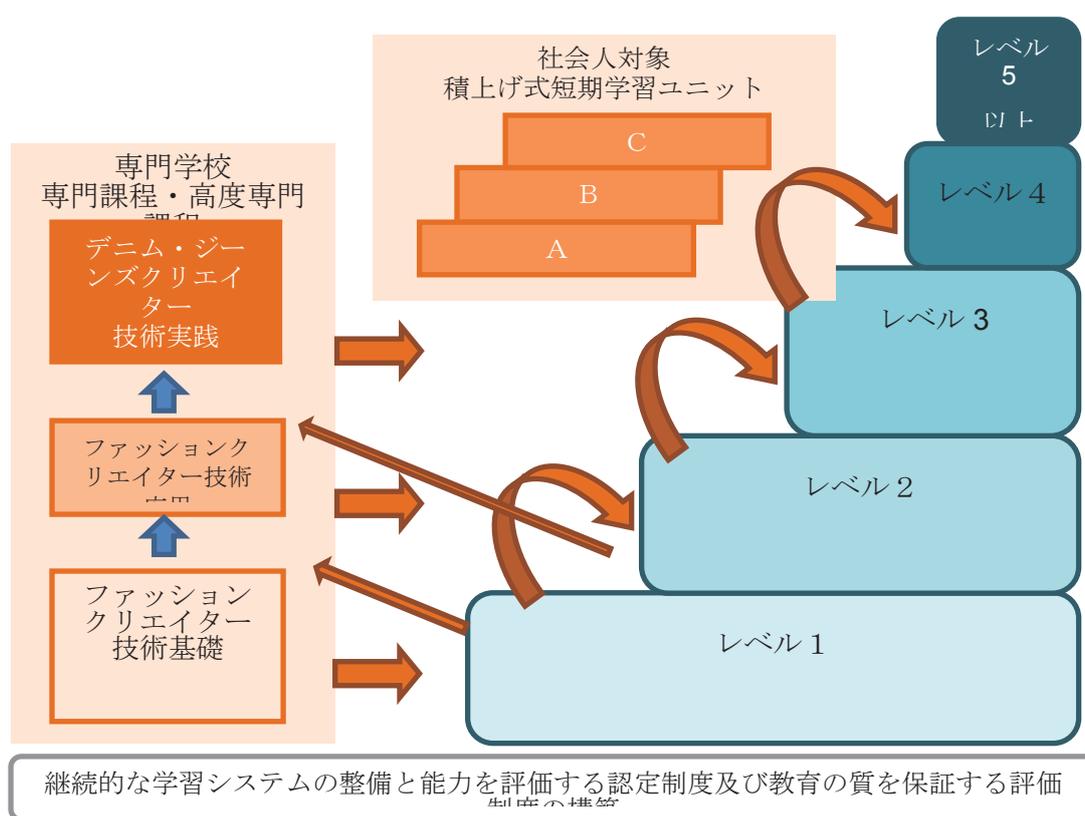
このため、就業後も含め、生涯にわたってキャリアパスが描けるよう、必要な知識・技術・技能をレベルごとに体系的にユニット化し、それらの積み上げが評価される「学習ユニット積上げ方式」によるアクセスしやすい学習環境の整備を目指している。

また、モデル・カリキュラム基準を活用した短期教育プログラムの整備と質を保証するための評価制度を検討協議した。

これにより、業界に就業した社会人に対しても新たに必要な知識・技術等を更新する機会を充実する。その際、関係企業と専門学校等が連携し、現場での就労経験を踏まえたカリキュラム編成・評価等を行えるような評価システムを構築する。このシステムが

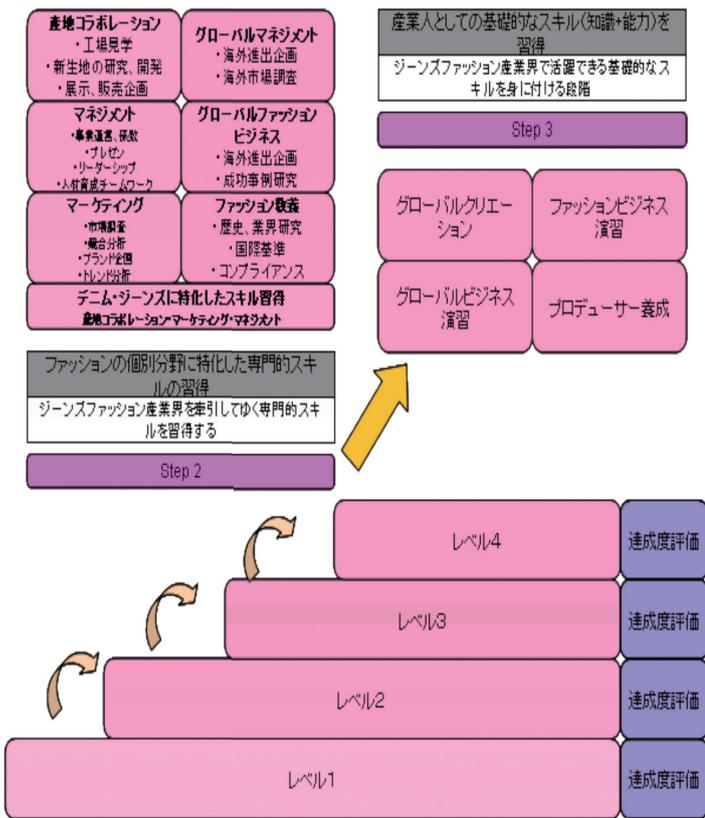
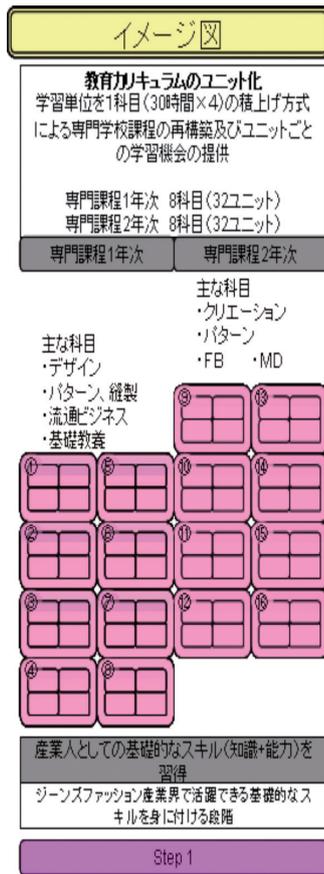
実現することによって多様化する産業界のニーズに即応する専門人材養成を目指すことができる。

また、産業界と関連専門学校等との連携により、学生が学んだことが修得されているかどうかを測る達成度評価の評価指標等を含めた手法や、学校活動における専門的な評価指標等の開発に取り組む予定である。



積上げ式学習システムの構築

業界に就業した社会人に対しても新たに必要な知識・技術等を更新する機会提供するため、アクセスし易い学習システムの構築を検討した。このため、専門学校の履修科目をユニット化し、再構築を行なった。1科目を4つの学習ユニットで構成し、1ユニットあたりの授業時間基準を30時間、1科目の授業時間120時間を基準として学科を構成する。



育成を目指す人材像

日本のものづくり産業は、生産工程において久しくその優位性を保っていたが、アジア新興国においてCAD/CAMによるデジタル化が進み、生産工程での差別化が図りづらくなっている。日本のものづくり産業が今後も優位性を保ち、世界のものづくりをリードしてゆくためには、サプライチェーンにおける日本の役割と国際分業のポジションの確立が重要であり、これらを構築できる人材が求められる。

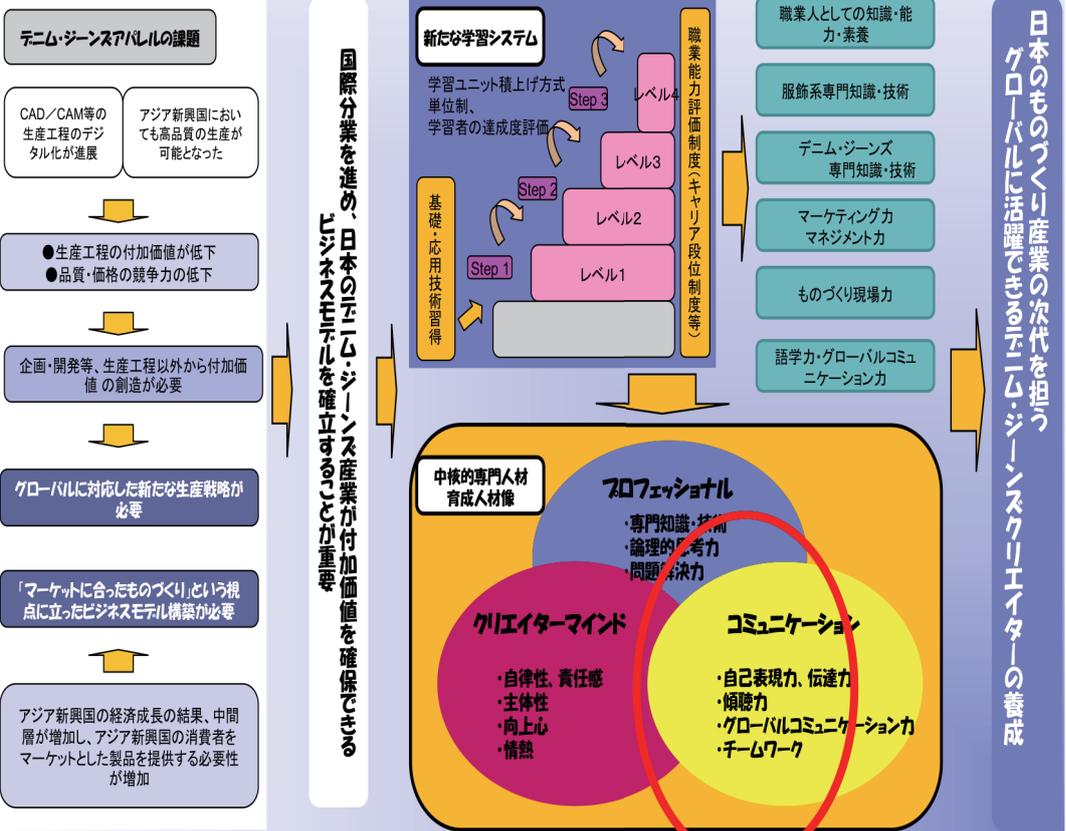
また、生産拠点であるアジア新興国が消費市場としても成長が期待されつつある。今後は、アジア新興国の市場を対象とした商品供給やビジネスモデルの構築が急務であり、グローバルに対応できる人材が求められる。

テニム・ジーンズクリエイター養成基盤整備のための教育プログラム開発と実証 育成人材像のイメージ

育成を目指す人材像

日本のものづくり産業としてのテニム・ジーンズアパレルが、新たな価値を創造し、構築の進展する国際分業体制でのポジションと期待される役割を担うことのできるテニム・ジーンズクリエイター。

イメージ図



産地コラボレーションによる教育領域のイメージ

第4章 実証

1. 産地コラボレーションの実施

目的：本校及び久留米大学学生を対象としたデニム・ジーンズ産地と久留米産地のコラボレーション演習を実施する。学生がチームを組んで企画提案をまとめる。産地コラボレーションのモノづくり現場力養成について有効性について実証し、人材養成に活用する。

対象、規模：本校及び久留米大学学生 各20名程度

参画企業 岡山・久留米 各1社（合計2社）

時期：10月～12月

手法：説明会およびプロジェクト演習

1. プロジェクト概要

1) 趣旨・目的

本プロジェクトは「岡山県をモデルとした中核的デニム・ジーンズクリエイター地域学び直し教育プログラム開発と実証」の事業内容の一つとして、現地調査と実証講座をコラボレーションした、新たな取り組みである。

岡山と久留米という地方に焦点をあて、若者目線による地域再生のためのデマンドならびにシーズの掘り起しを相互交流によるプロジェクトワークによって探索することが目的である。

地方活性のカギは若者というキーワードのもと、若者が就業に魅力を感じるためには、他者からまた異なる分野からの意見も必要である。そこで、本プロジェクトでは、実証講座と訪問調査の2つの内容をコラボレーションし、実証講座においてはアクティブラーニングによるプロジェクトワークの教授法を用い、参加者と場の効果を活用した。現地訪問調査においては、単に現状を知るだけでなく、参加者同士の省察（リフレクション）を適宜取り入れることで、情報を集め、分析・加工し、発信を目標とした。調査の視点は、地元を調査するのではなく、地方同士の若者が、相手の地域を主に調査し、調査後に意見交換をすることで従来見落としていた課題や可能性を掘り起こすことにした。そのため、本プロジェクトの最後には、若手人材が定着しない問題点とそれを改善するための企画提案を行うことを目標とした。

そのため、参加者も同質の組み合わせを避け、専門学校、大学という異なる学校種、社会人や留学生も含めた異なる学年や背景を持つ参加者、デザインと社会学という異なる分野の学生でプロジェクトを構成した。

2) 調査概要

・産地コラボレーションの実施

藍染の共通点を持つ岡山と久留米のそれぞれの地場産業の実情を調査する。岡山はデニム、久留米は久留米絣で藍染加工を行っている。この両地域は、絣を通してつながっている。井上伝によって久留米絣は開発され、久留米絣の職人がその技術や織機を備後に持ち込んだことで備後絣が岡山の産業になったという経緯がある。

・調査方法ならびに教授法

訪問調査を通して、参加学生によるプロジェクト演習を実施した。一つの教授法だけでなく、横断的なアクティブラーニングを行うことで、専門や既存の学問分野にとらわれない新しい発想で、産地を調査することを模索した。

調査方法としては、調査がメインであるが、それぞれの地域に在住する学生が産地の特徴や商品情報の現状を調べ、なぜ地元産業が活性化していないのか、その原因を調査し、改善案を提案することにした。外から見た地元という観点を企画に活かすために、相互クロスで相手の地域をメインに調査することとした。

現地調査のコーディネーターならびにアクティブラーニングのコーディネーターは、久留米調査は江藤智佐子（久留米大学）が、岡山調査は長船圭二（中国デザイン専門学校）が両校調整のための窓口を担当した。

・調査対象

地場産業として藍染で共通点を持つ、岡山と久留米の工房や工場等を調査対象とした。

3) 調査日程

①久留米調査

2015年10月23日（金）、24日（土）

②岡山調査

2015年11月6日（金）、7日（土）

4) 参加者

中国デザイン専門学校 学生22名（1年、2年、社会人）

久留米大学文学部 学生17名（3回生、4回生・うち留学生3名）

（引率教員：中国デザイン専門学校4名、久留米大学2名）



5) スケジュール

①久留米調査：久留米絰と地場産業

1日目：10月23日（金）「久留米絰の歴史を調べる（久留米エリア）」

11：30-12:10

石橋文化センター到着

- ・プログラム①久留米の芸術に触れる

12：30-12:50

高良大社 筑前一の宮

- ・久留米を一望し、土地の特徴をつかむ。

13：10-14:00 昼食

14：10-15:20

プログラム②講義「プロジェクト概要・企画づくり」

（久留米大学御井学舎 100号館 131教室）

15：30-16:20

プログラム③フィールドワーク「久留米絰の歴史と工程を調べる」（久留米絰資料館）

- ・機織り体験、資料館調査

17:00-18:30

プログラム④演習「調査結果のとりまとめ」（久留米大学御井学舎 1000号館 1051教室）

2日目：10月24日（土）「久留米絰と産業を調べる（田主丸エリア）」

10:00-11:30

プログラム⑤フィールドワーク「久留米絰の本物に触れる」（久留米絰工房「藍生庵」）

12:00-13:00

プログラム⑥産地体験「久留米の農業を知る」（右田果樹園）

13:10-14:10

酒蔵のまち、巨峰発祥の地としての久留米に触れる（紅乙女酒造、巨峰ワイナリー）

15:20 久留米調査 解散式（JR久留米駅前）

②岡山調査：デニム・ジーンズ産地エリアの調査

1日目：11月6日（金）「デニム・ジーンズ製造工程調査（児島エリア）」

12:00-13:00

はじめのことは、プロジェクト概要説明（再確認）（中国デザイン専門学校）

14:00-15:00

プログラム①フィールドワーク

「MADE IN JAPAN へのこだわり
vol.1ー岡山テキスタイルメーカー
ー」（株式会社ショーワ）

15:30-16:30

プログラム②フィールドワーク

「MADE IN JAPAN へのこだわり vol.2ージーンズ特殊加工メーカー」
（美東有限会社）

17:00-17:30

桃太郎 JEANS ファクトリーショップの見学

2日目：11月7日（土）「デニム・ジーンズの歴史を知る・ジーンズショップ巡り（児島エリア）」

9:30-10:30

プログラム③フィールドワーク「見る・触れる・作る・買うでジーンズを体験 vol.1」
（ジーンズミュージアム&ヴィレッジ）

11:00-12:30

プログラム④フィールドワーク「見る・触れる・作る・買うでジーンズを体験 vol.2」
（児島ジーンズストリート）

13:00-13:40 昼食

14:20 岡山調査解散式（JR 岡山駅前）



Introduction



デニムの聖地 岡山で 見る！触れる！作る！買う！ツアー

株式会社ショーワ

①MADE IN JAPANにこだわら
弊社は思いからいつまでも着られる、テキスタイルメーカーとして選
材料にはほとんどこだわり、当時から出て行く物は、安価な商品を使って既
のトラブルを起したり、地球環境に負荷をかけるような生産にあたっ
て、数々の試験を繰り返して、安心・安全な生地を提供し続けています。



②ECOLOGYにこだわら
オーガニック商品や天然染
めを研究し、汚染の少ない商品
を開発している。

③人に優しい商品にこだわら
職人が多く、安心して長期
愛される素材作り、幸せの文化
を発信出来ること。

「着る人の心を幸せにした
い」-それが私達の、ものづく
りの理念。

「国産で良かった一つ、ショー
ワならではのテキスタイルを
着るう」という思いをもっ
て、マリアテイルの聖地を
生み出してきました。世界
最良のテキスタイル展示会
『ブルエール・ヴェルヴェ』
にも出展しております。

子供服、カジュアルウェアから
海外ラグジュアリーブランドまで西陣のフェードが広がっています。
そんな当社の強みは、素材・デザイン・品質すべてのこだわりが通
いこコストや生産量では中国や東南アジアに敵わないかもしれませ
んが、その品質の高さ、良さが、職人さんとともに生み出されて
いるのです。また原産地に限らず、靴・靴や素材等、用途はどこまで広が
っています。 株式会社ショーワHPより

美東有限会社

デニム・ジーンズ製品特殊加工



ジーンズストリート ※別紙参照



岡山が生んだ日本のちらし食し！
江戸時代、池田の戦場の給糧のもと
庶民の知恵から生まれた「倉貯し」。
お祭りのお供として昔より愛される
岡山を代表とする郷土料理です。

名物「ガソラうどん」
安くて美味いうどんが味わえる！
セルラうどんまでガソラは
いかがでしょうか？

2. プロジェクトのコンセプト

1) 目的

中国デザイン専門学校の学生と久留米大学の学生を対象としたデニム・ジーンズ産地（岡山）と久留米絨の産地（久留米）のコラボレーション演習をアクティブラーニング形式で実施する。

2) 実施方法

産地の企業から企画提案型のプロジェクトを行う課題を現地調査で聞き取り調査し、学生がチームを組んで企画提案をまとめる。→商品企画もしくは広報企画の提案など。
産地コラボレーションのモノづくり現場力養成についての有効性を実証し、人材養成に活用する。→能力ルーブリック評価表を作成し、事前、中間、事後の3時点で点検・評価を行う。（現場力養成による人材育成での獲得能力の検証。）

3) コンセプト

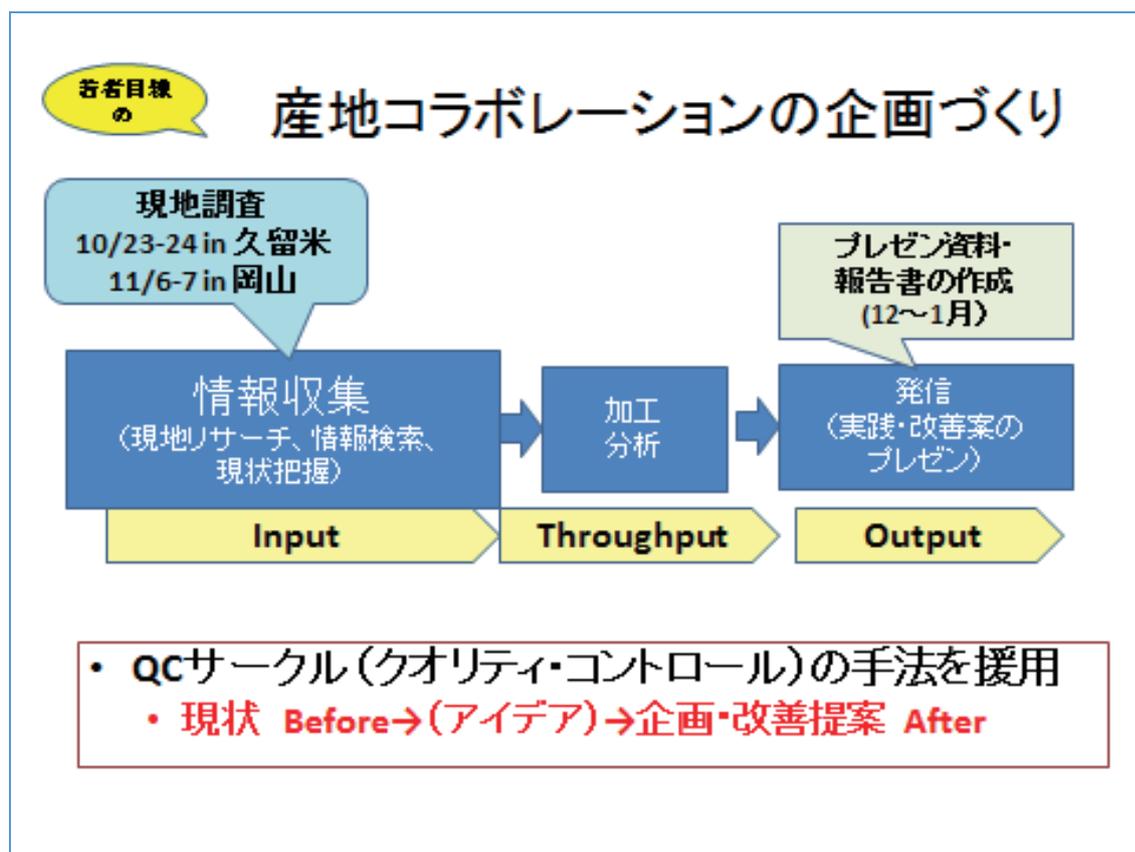
- ・テーマ：「若者が見る 地元再発見！（久留米再発見 & 岡山再発見）」

地方再生のカギは、若者が足元を見ること、知ることであり、若者目線での他地域による地元の外部評価を用いた調査・検証を行う。

4) プロジェクトの流れ

産地コラボレーションプロジェクトの調査、分析・加工、発信のプロセスを表した、スケジュールならびに流れを示したのが、図表1である。

図表1 産地コラボレーションプロジェクトの流れ



3. 授業内容

①ペアインタビューの手法を用いた調査結果のとりまとめ

久留米大学文学部情報社会学科では、「社会調査法 1, 2」が必修科目として配置されている。社会調査法と対人能力の育成のため、全員が質的調査の中でもインタビュー調査を2年次までに習得するカリキュラムとなっている。そこで、この社会調査法を援用し、ペアインタビューという手法を用いて、初めて久留米に来る岡山の学生にインタビュー形式で聞き取り調査を行い、それをルポルタージュ記事にまとめるというプログラムを実施した。インタビューを行うのは久留米大の学生で、中国デザイン専門学校の学生は、到着後に渡されたテーマについて、初日のプログラムを受け、その意見を話すという形式を用いた。1人で2名のインタビューを行い、それをとりまとめ、30分でルポルタージュ記事を作成するというワーク形式の授業で実施した。

このワークにより、同じ課題を共有したことで、ペアインタビューで担当した学生同士の相互交流が深まることとなった。

インタビュー記事を書く

1) **ルポルタージュスタイル**
 文章全体を客観的に表し、
 インタビューの相手が主
 人公となるスタイル。

2) **Q&Aスタイル**
 インタビューをする人とさ
 れる人が交互に登場する
 スタイル。
 ⇒ルポルタージュ記事
 formを参照




②KJ法を用いた課題探求ならびに企画提案

2 地域の現地調査を行った後、2校それぞれのグループに分かれ、「デニムクリエイター人材育成のための課題探求」をグループワーク形式による課題探求型学習方法を用いて実施した。

授業は、グループワークの中に KJ 法を取り入れて行った。

授業方法は、アイスブレイキングを行った後、テーマに沿って、時間を区切りながらカードを用いたブレインストーミングを活用して行った。

教員はファシリテータとして、適宜ワークのレクチャーを行いつつ、グループの会話が促進するようなサポートを行った。久留米大学の学生は、「原因・理由」と「改善策の提案」という 2 つの課題を 120 分で、中国デザイン専門学校の学生は、「改善策の提案」のみを 90 分で実施した。

授業実施内容は、次に示すとおりである。

■久留米大学

- ・グループワーク 2015 年 11 月 9 日 (月) 14:55－16:55 (120 分)
- ・1 グループで実施
 - ・テーマ①原因・理由を探る「なぜ産地・産業の若手人材が育たないのか」
 - ・テーマ②地域人材育成のための改善策提案「若手人材育成のためには何が必要か—どうしたら産地産業が活性化し、若者がデニムクリエイターになろうとおもうようになるのか?—」
 - ・企画提案のプレゼン発表 2 名の VTR 収録

2015 年 11 月 11 日 (水) 12:30－13:00 (30 分)

5. 評価・検証③ ー改善案のプレゼン資料作成ー

若者目線
での

デニムクリエイター人材育成のための課題探究

第1回グループワーク

原因・理由を探る

「なぜ産地・産業の若手人材が育たないのか。
ー若手人材が地域産業に従事しないのかー」

第2回グループワーク

地域人材育成のための改善策提案

「若手人材育成のためには何が必要か。
ーどうしたら産地産業が活性化し、若者がデニムクリエイターになろうと思うようになるのか？ー」

図解（模造紙orパワーポイントスライド）の作成

原因・理由（久留米大学生の事例）

【キーワード】なぜ産地・産業の若手人材が育たないのか ー若手人材が地域産業に従事しない原因・理由ー

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 就職 ・ 普通の職に就いたほうが安定している ・ 就職方法がわからない ・ 学校がない ・ なるまでが難しそう ・ デザイナーの就職難 ・ 収入の心配 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2. 知名度 ・ デニムについての知識がない ・ 産地・産業について知る機会がない ・ 機械の発達による人員の削減 ・ 知名度が低い ・ 地元民への浸透率(仕事)が低い ・ 宣伝が足りない | <ul style="list-style-type: none"> ・ イメージ ・ 若者は繰り返す仕事がいやだ ・ デニムが古い(イメージ)が ・ 作ることよりデザインを考えたい ・ 男性職のイメージ ・ 職人気質な雰囲気がある ・ いやな仕事というイメージ |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. お金(商品) ・ ファストファッションに目が行く ・ 値段が高い ・ ブランドのデニムが高い ・ 安い値段でも手に入る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2. 興味 ・ デニムへの興味がない ・ 仕事に就く魅力がない | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3. 体験して ・ 工場が汚い ・ 工場で働くことが嫌だ ・ 環境が悪い |

14

改善・提案（久留米大学生の事例）
【キーワード】若手人材育成への課題

1: イメーラ・宣伝強化

- ・宣伝強化（モデルの起用等）
↳魅力を知らしめる
↳デニム大衆を作り、宣伝力アップ
- ・イメージ戦略、イメージ強化
↳実際にジーンズを穿いてもらう
- ・ブランド力の強化
↳自分の好きなブランドから引っ張ってくる
- ・現場の公開
- ・小学校からのイメージ教育
↳岡山の学校の授業に取り入れ
↳知識を広める
- ・産地産業を知る機会をもっとつくる
↳デニムのことを学べる学校を増やす
- ・育成プログラムの強化
↳学校時代から就職授業を増やす（職業体験を設ける）
↳見学ツアー、インターン、就職学習の取り入れ

2: 職場環境の改善

- ・施設の改善
- ↳工場をきれいにする
- ↳健康被害を減らす
- ↳ライン担当と企画担当を一緒にする
- ↳職場に音楽を流す
- ↳もっと都会に工場を移転
- ・制度の改善
- ↳作業者をお洒落に作る
- ↳通勤の幅を広げる
- ↳ニートやフリーター（コミュニケーションが苦手な人）へ仕事を勧める
- ↳女性に有益な福利厚生
- ↳賃金up

3: 資材への取り組み

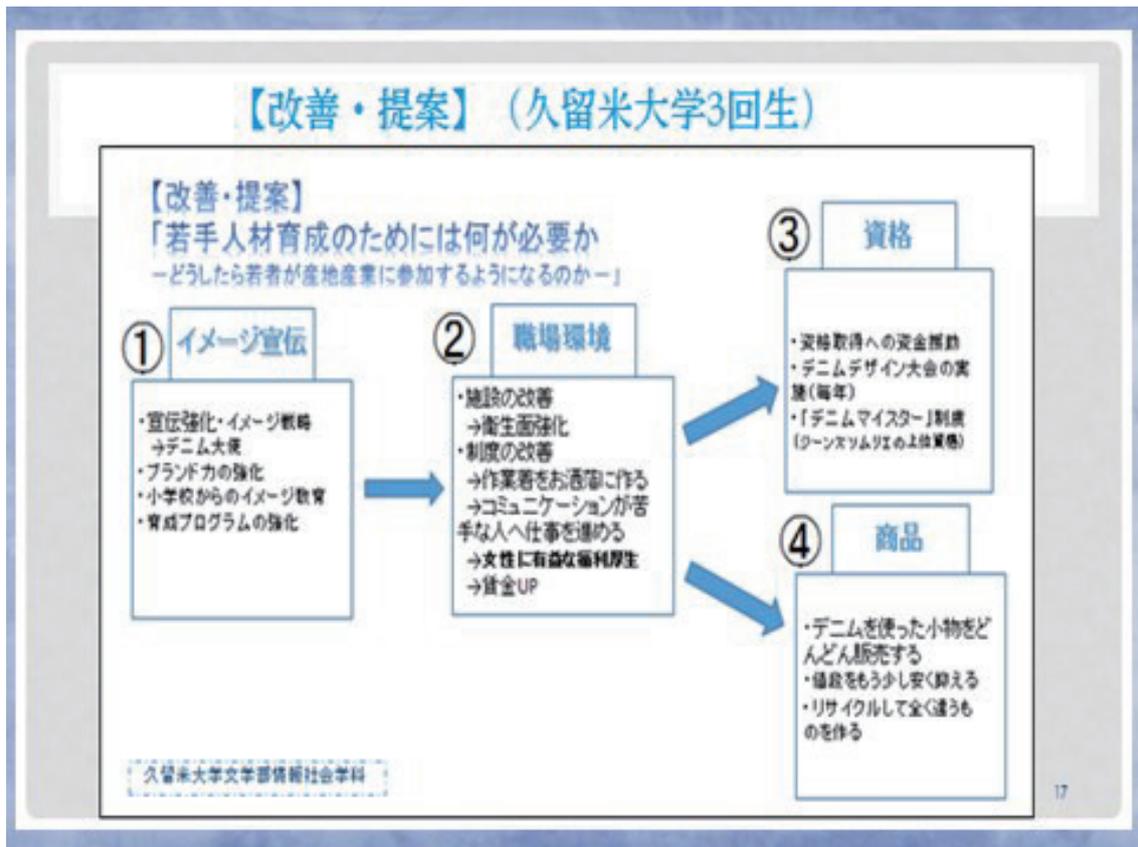
- ・デニムマイスターを溢れる（ソムリエよりも上位者）
- ・資格取得への資金援助
- ・毎年デニムデザイン大会を行う

4: 商品の改善

- ・デニムを使った小物をどんどん販売する
- ・値金をもう少し安く抑える
- ・リサイクルして全く違うものを作る

【原因・理由】（久留米大学3回生）





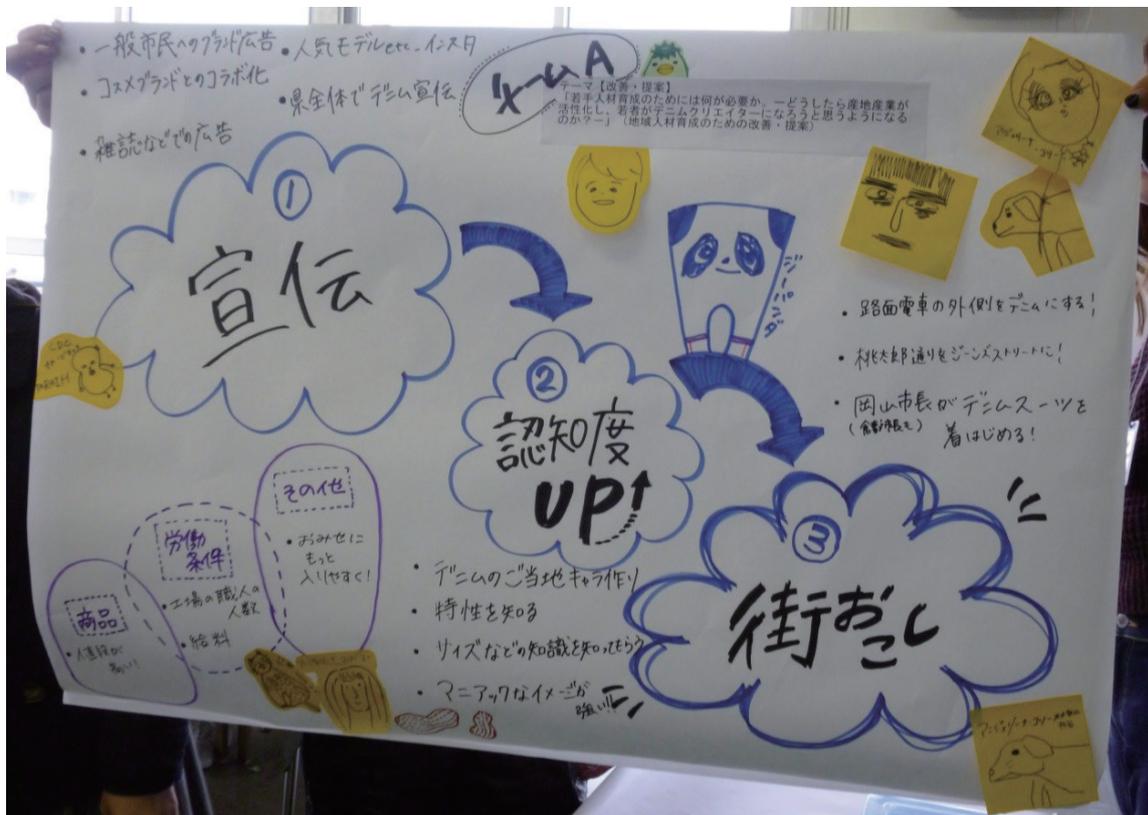
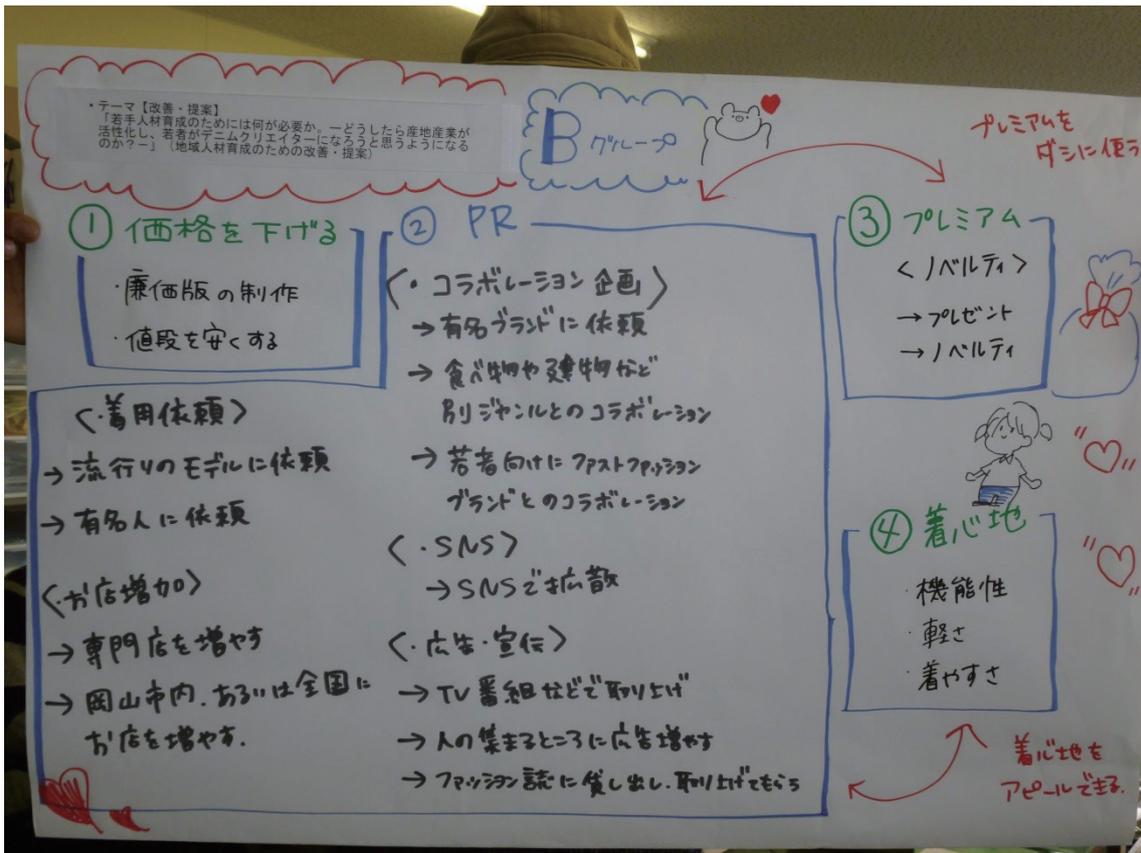
■ 中国デザイン専門学校

- ・ グループワーク 2015年11月20日（金）13:00—15:00（120分）
（授業後、プレゼン発表）

・ 2グループで実施。

- ・ テーマ②地域人材育成のための改善策提案「若手人材育成のためには何が必要か—どうしたら産地産業が活性化し、若者がデニムクリエイターになろうとおもうようになるのか?—」





4. 評価・検証

1) 自己評価

①自己評価ー能力ルーブリック評価ー

アクティブラーニングによる能力の獲得状況を能力ルーブリック評価による自己評価の手法を用い、講座内容を検証した。

本プロジェクトでは、学び直しのモデルプログラムを模索するため、現場力を8つの能力として抽出し、学修到達目標の指標としてルーブリック評価表を作成した。なお、この8つの能力は、「実践キャリア実務士」のルーブリック評価表¹と経済産業省の「社会人基礎力」を参考にし、その中からこのプロジェクトワークを通して身につけて欲しい現地調査や企画提案などのプロセスによって得られる能力項目を検討し、8つの能力を抽出した。

能力評価の項目は、「1. 情報収集能力」（地域の情勢や課題を知るために、情報を得るだけでなく、自分の意見を交え議論ができる。）、「2. 社会を知る力」（学修の現場で、社会的な観点をもって幅広い問題意識と協働意識をもって行動している。）、「3. 主体性（物事に進んで取り組む力）」（自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる。）、「4. 課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）」（現状を正しく認識するために情報を収集し、分析し、目的や課題を明らかにすることができる。）、「5. 計画力（課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）」（作業プロセスを見える化し、優先順位をつけて、実現性の高い計画をたてることができる。）、「6. 創造力（新しい価値を生み出す力）」（複数のものを組み合わせて新しいものを作り出すことができる。）、「7. 柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）」（自分お意見を持ちながら、他人の良い意見も共感をもって受け入れることができる。）、「8. 状況把握力（自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）」

（周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。）の8つである。この中で、「1. 情報収集能力」と「2. 社会を知る力」は「実践キャリア実務士」のルーブリックから、それ以外は社会人基礎力を参照とした。

評価時点は、①受講前、②中間（久留米調査終了時点）、③受講後（岡山調査終了後）の3時点において、点検・評価した。

「能力ルーブリック評価表」は、図表2に示すとおりである。

¹「実践キャリア実務士」の到達目標達成度評価（ルーブリック）とは、一般財団法人全国大学実務教育協会（以下 JAUCB とよぶ）が「実践キャリア実務士」資格の到達目標達成度評価を独自に定めた指標である。このルーブリックは、平成27年6月17日に会員校に通知された。JAUCBでは、「実社会の変化に対応する実務教育・キャリア教育に関わる認定事業を推進し、その質保証をはかる」ため、平成25年度から中長期視点にたった資格改革に取組みに続き、「実践キャリア実務士」教育課程から始める到達目標達成度評価表による新たな質保証方法について検討し、試行期間での利用を促すために会員校にこのルーブリックを通知している。

図表2 「産地コラボレーションプロジェクト」の能力ルーブリック評価表

平成27年度「岡山—久留米:産地コラボレーションプロジェクト」 「学修成果の能力評価と今後のキャリア」					
学校名					氏名:
■あなた自身について					
・性別	男性	・女性	・学年	()	年生
①プロジェクト開始前、②中間、③プロジェクト終了後の能力をルーブリックの評価基準を見ながら自己評価(S,A,B,C,D)を記入し、それぞれ評価の根拠となる具体的な事実(行動)と振り返り(省察)を記入してください。プロジェクト終了後には、「今後のキャリア(今回のプロジェクトで得た経験の活用)」について書いてください。					
①プロジェクト開始前2015年10月23日⇒②中間評価 10月24日⇒③プロジェクト修了後:11月7日					
1. 情報収集能力					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・地域の情勢や課題を知るために、情報を得るだけでなく、自分の意見を交え議論ができる。	・地域の実情や情勢をるために、情報を得るようにしている。	・地域の実情や情勢を知るために、情報を得るように努力をしている。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を【プロジェクト終了後に】記入					
2. 社会を知る力					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・学修の現場で、 <u>社会的な観点</u> をもって幅広い問題意識と協働意識をもって行動している。	・学修の現場で、問題意識と協働意識をもって行動している。	・学修の現場で、問題意識と協働意識をもって行動するよう努力している。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を【プロジェクト終了後に】記入					

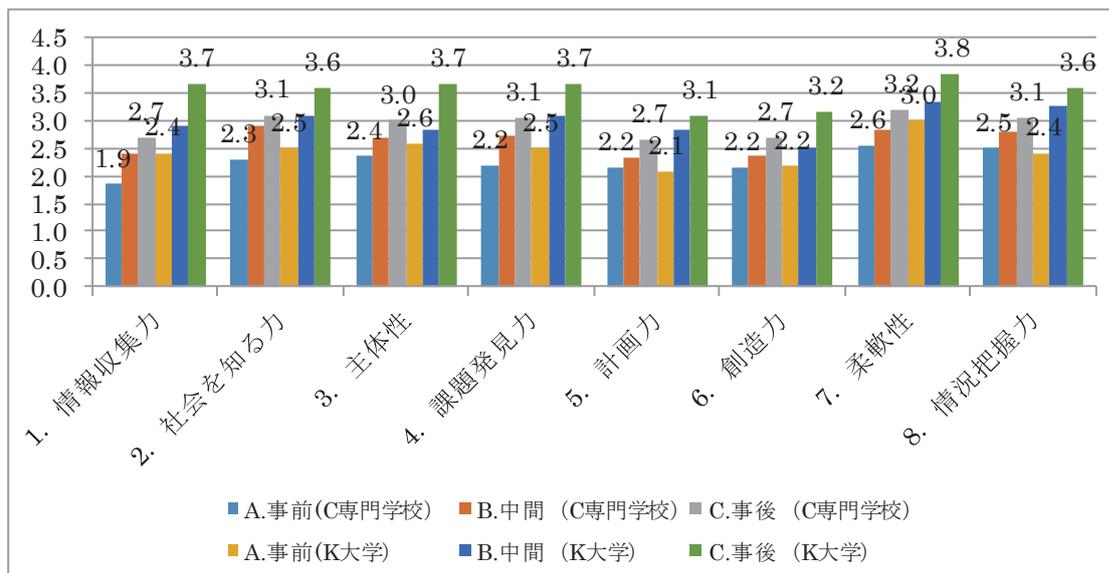
3. 主体性(物事に進んで取り組む力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	・自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自分の能力を発揮して取り組むことができる。	・自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自分の能力を発揮して取り組むように <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を記入					
4. 課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・現状を正しく認識するために情報を収集し、分析し、目的や課題を明らかにすることができる。	・現状を正しく認識するために情報を収集し、分析することができる。	・課題を明らかにするために、他者の意見を聞くように <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を【プロジェクト終了後に】記入					
5. 計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・作業プロセスを見える化し、優先順位をつけて、実現性の高い計画を立てることができる。	・計画を立て、実行し、評価点検をしながらプロジェクトを進めるようにしている。	・計画を立て、実行し、評価点検をしながらプロジェクトを進めるように <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を記入					

6. 創造力(新しい価値を生み出す力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作り出すことができる。	・従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	・従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すように <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を記入					
7. 柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感をもって受け入れることができる。	・相手がなぜそのような考えなのか、相手の立場になって理解することができる。	・相手がなぜそのような考えなのか、相手の立場になって理解するように <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を記入					
8. 状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)[社会人基礎力]					
ランク	Sランク (90~100点)	Aランク (80-89点)	Bランク (70-79点)	Cランク (60-69点)	Dランク (59点以下)
評価基準	Aランクを超えて非常に高い学習成果を達成したレベル。	・周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる。	・自分ができること、他人ができることを的確に判断し、行動することができる。	・自分ができること、他人ができることを的確に判断し、行動することができるよう、 <u>努力している</u> 。	不可
あてはまる評価レベルに○をつけてください。					
①プロジェクト開始前	S	A	B	C	D
②中間評価	S	A	B	C	D
③プロジェクト終了後	S	A	B	C	D
振り返り(省察): 評価の根拠となる事実や出来事を記入					
5. 今後のキャリア[プロジェクト終了後に記入]					
今回のプロジェクトで得た経験を、今後、どのように学生生活や進路に活かしていこうと思いますか。					

②能力ルーブリックの分析結果

8つの能力ルーブリックの事前、中間、事後の5段階尺度の平均値を表で示したものが図表3である。

図表3 8つの能力の3時点（事前、中間、事後）の比較一覧

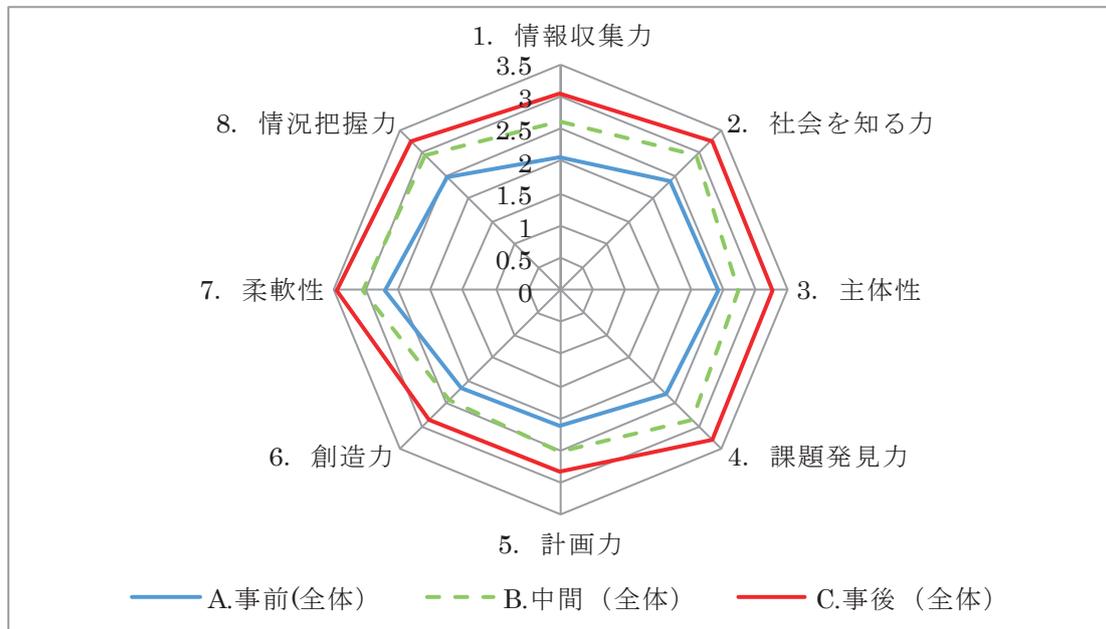


		1. 情報収集力			2. 社会を知る力			3. 主体性			4. 課題発見力		
		事前1	中間1	事後1	事前2	中間2	事後2	事前3	中間3	事後3	事前4	中間4	事後4
中国デザイン専門学校	平均値	1.850	2.421	2.700	2.300	2.895	3.100	2.350	2.684	3.000	2.200	2.737	3.050
	度数	20	19	20	20	19	20	20	20	20	20	19	20
	標準偏差	.8127	.6925	.6569	.5712	.6578	.5525	.6708	.7493	.8584	.6156	.7335	.6863
	最小値	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0
	最大値	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.0	4.0
久留米大	平均値	2.417	2.917	3.667	2.500	3.083	3.583	2.583	2.833	3.667	2.500	3.083	3.667
	度数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	標準偏差	.6686	.6686	.6513	.5222	.6686	.5149	.6686	.5774	.4924	.5222	.5149	.4924
	最小値	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0
	最大値	4.0	4.0	5.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
合計	平均値	2.063	2.613	3.063	2.375	2.968	3.281	2.438	2.742	3.250	2.313	2.871	3.281
	度数	32	31	32	32	31	32	32	31	32	32	31	32
	標準偏差	.8007	.7154	.8007	.5536	.6575	.5811	.6690	.6816	.8032	.5923	.6704	.6832
	最小値	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0
	最大値	4.0	4.0	5.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	4.0	4.0	4.0

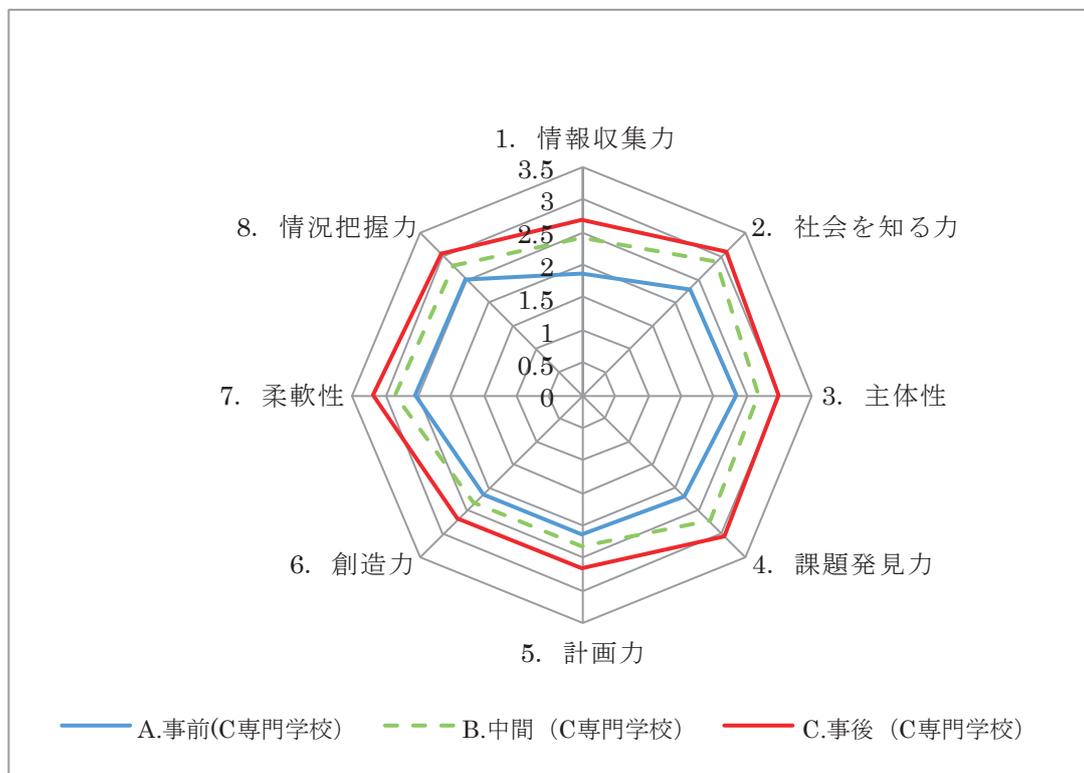
		5. 計画力			6. 創造力			7. 柔軟性			8. 状況把握力		
		事前5	中間5	事後5	事前6	中間6	事後6	事前7	中間7	事後7	事前8	中間8	事後8
中国デザイン専門学校	平均値	2.150	2.316	2.650	2.150	2.350	2.700	2.550	2.850	3.200	2.500	2.789	3.050
	度数	20	19	20	20	20	20	20	20	20	20	19	20
	標準偏差	1.0400	1.0029	.8127	.7452	.8127	.8645	.7592	.6708	.6959	.5130	.5353	.7592
	最小値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	最大値	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0
久留米大	平均値	2.083	2.833	3.083	2.167	2.500	3.167	3.000	3.333	3.833	2.417	3.250	3.583
	度数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	標準偏差	.9003	.7177	.6686	.7177	.6742	.7177	.7385	.6513	.5774	.5149	.6216	.5149
	最小値	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0
	最大値	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	3.0	4.0	4.0
合計	平均値	2.125	2.516	2.813	2.156	2.406	2.875	2.719	3.031	3.438	2.469	2.968	3.250
	度数	32	31	32	32	32	32	32	32	32	32	31	32
	標準偏差	.9755	.9263	.7803	.7233	.7560	.8328	.7719	.6949	.7156	.5070	.6046	.7184
	最小値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	最大値	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	5.0	3.0	4.0	4.0

また、全体データならびに中国デザイン専門学校と久留米大学の平均値について事前、中間、事後の3時点を図で示したのが図表4、5、6である。

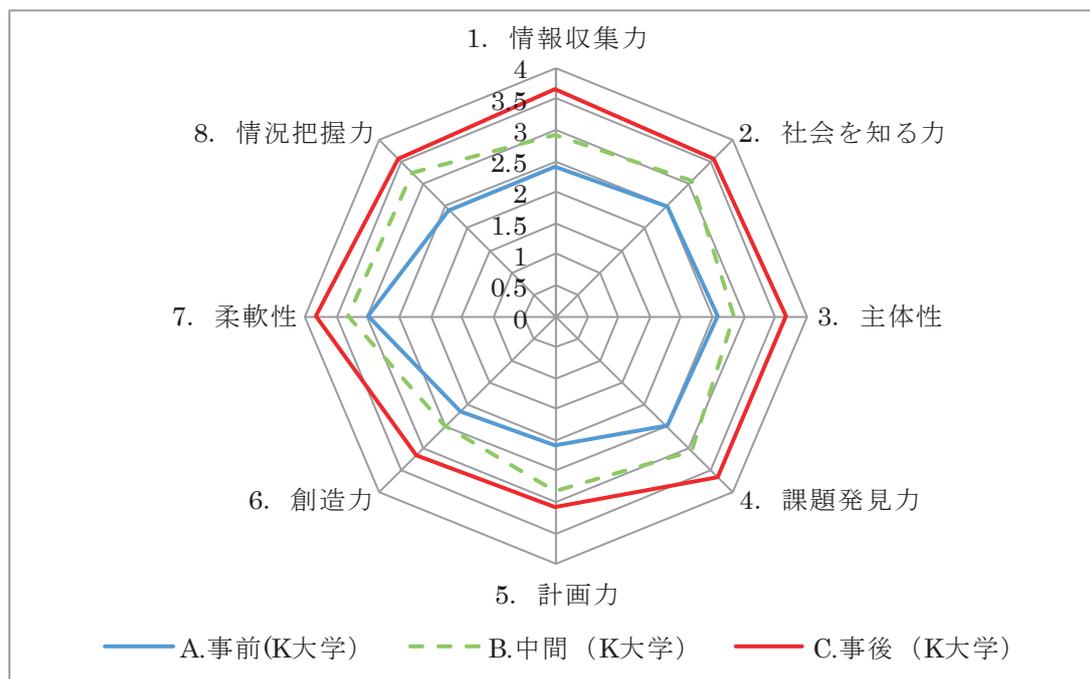
図表4 全体の能力概要



図表5 中国デザイン専門学校の能力概要



図表 6 久留米大学の能力概要



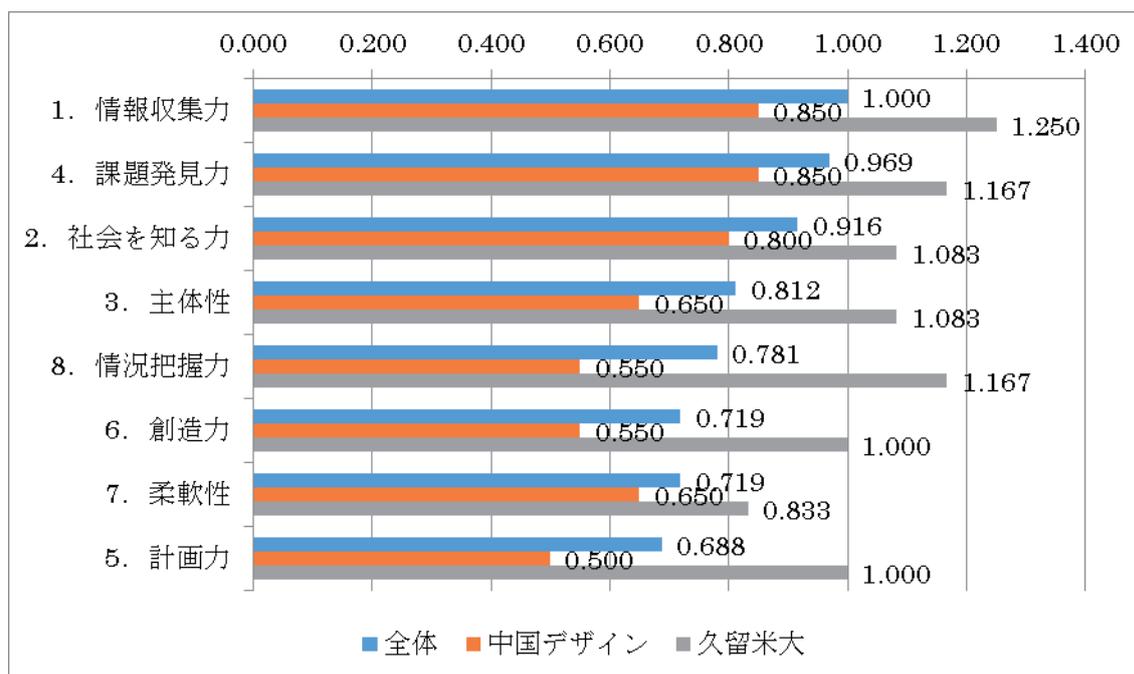
全体での獲得能力で最も高かったのは、「柔軟性」(3.438)であり、次いで「課題発見力」「社会を知る力」(3.281)、そして「主体性」(3.250)であった。学校別に見ると、中学デザイン専門学校の学生で獲得能力の大きかったものは、「柔軟性」(3.200)、「社会を知る力」(3.100)、「状況把握力」(3.050)であった。久留米大学での獲得能力で大きかったものは、「柔軟性」(3.833)、「課題発見力」「情報収集力」「主体性」(3.667)である。

全体、各校の獲得能力からも「柔軟性」の獲得能力が最も高いことが分かる。これは、異なる学校種、異なる地域、異なる学年で同じ課題を共有した課題解決型のアクティブラーニングをすることで、相互の話しを聞く力が必要であったことが伺える。

また、専門学校生はアクティブラーニングになれていないこと、また学年が1・2年と年少であることから「社会を知る力」や「状況把握力」が高くなった。それに対し、大学生は、このプロジェクトに参加する前にもアクティブラーニングの経験があること、学年が3・4年次と年長であることから、「課題発見力」や「主体性」の高さが表れていた。

次に、プロジェクトの前後(事後-事前)の獲得能力の差を示したのが、図表7である。

図表7 獲得能力の差（事後－事前）



	全体	中国デザイン	久留米大
1. 情報収集力	1.000	0.850	1.250
2. 社会を知る力	0.916	0.800	1.083
3. 主体性	0.812	0.650	1.083
4. 課題発見力	0.969	0.850	1.167
5. 計画力	0.688	0.500	1.000
6. 創造力	0.719	0.550	1.000
7. 柔軟性	0.719	0.650	0.833
8. 状況把握力	0.781	0.550	1.167

プロジェクト開始前（事前）と終了後（事後）との獲得能力の差が大きかったものは、「情報収集能力」（1.000）、「課題発見力」（0.969）、「社会を知る力」（0.916）であった。専門学校生がこのプロジェクトで獲得した能力で大きかったものは、「情報収集力」「課題発見力」（0.850）、「社会を知る力」（0.800）であった。大学生がプロジェクトを通して獲得した能力が大きかったのは「情報収集力」（1.250）、「課題発見力」「状況把握力」（1.167）であった。

以上のことから、このプロジェクトで高い能力が求められたのは他者を理解し、意見を調整する「柔軟性」であり、同じテーマについて一緒に考え課題を解決するための「課題解決力」や「主体性」が必要であったが、学生たちが短期間のプロジェクトを通して獲得した能力は「情報収集力」や「課題発見力」であることが明らかになった。

③自由記述による各能力の根拠

では、なぜ本プロジェクトでは学生たちに「柔軟性」が最も高い能力として求められたのか。量的評価だけでなく、各能力には根拠コメントも記載してもらったため、その根拠コメントから考察していきたい。

「柔軟性」の項目は、社会人基礎力のレベル1から3を5段階尺度に再加工し使用した。ここでの柔軟性とは、「意見の食い違いは立場の違いを理解する力」を指す。

「柔軟性」が高かった理由として、以下の仮説が考えられる。

- 1) 地元の良さを他者から教えてもらう形式をとったことで、自分の地域のことを話してもらうことで相手の話をよくきくことができたのか。
- 2) 調査結果を企画提案に反映しなければならないため、相手の話を聞いて新たなアイデアを出そうと試みたからなのか。

各能力の根拠コメントを見ると、以下のとおりである。

■「柔軟性」が身についた根拠となる事実や出来事

(中国デザイン専門学校)

- ・久留米は伝統の藍をそのまま活かしていき、岡山ジーンズは藍を使った何かものを作るべき。
 - ・自分の意見と他人の意見を受け入れることができた。
 - ・自分が思っていることを違う意見が出た時は、きちんと自分お意見だけでなく他の意見も考えて取り入れることができた。
 - ・相手の考えを理解できるようになった。
 - ・相手の立場になって物事を考えることができなかった。
 - ・年齢、住む場所、育ち方が全く違う人たちが集まり、それぞれ考え方があったので、なるほどと思いながら話を聞いた。
 - ・久留米の人と意見を交換できた。
 - ・よく考え、理解しなければならないが、色々と想像したりあてはめたり、第三者から見たときなどもよく連想する。
 - ・相手がどう思っているか、きちんと聞いて理解しようと常日頃思っているため。
 - ・(相手を)理解しようとした。
 - ・集団行動で相手の気持ちをちゃんと読みとれた。
 - ・久留米の学生さんから見た岡山と、私たちから見た岡山のイメージや印象が違うことで新たな発見があった。
 - ・多くの人の意見を多く聞けたことで、深く考えることができた。
 - ・自分の意見を持つように努力もしたが、相手の感性を理解することにも努めた。
-

-
-
- ・ ペアインタビューにて、自分の考えていたこととは違う意見を発言している人がいて、こんな考えもあるんだなと勉強になりました。
 - ・ 大学でインタビューされた時、相手の意見を良く聞き、共感をもって、話すことができた。

(久留米大学)

- ・ 討論の時、みんなの意見を聞いて、自分は考えできないことをたくさん見つけました。
- ・ 中国デザインの学生は、自分と全く価値観の違う方が多かったです。 久留米の印象を聞いた時、古い建物が残っていて綺麗と言っていたので、古いものに対して、良い印象を持っていることが面白かった。
- ・ デニムを買う側の意見を考えつつ、デニムを作り側に質問することができたと思う。 両方の意見の違うところ、同じところを見つけようと考えていた。
- ・ 売る側と買う側の考えの違い、求めるものの違いを今回知る事ができ、両方が実現できるものとそうでないものも考察できたので、共感をもって受け入れることはできたと思う。
- ・ そもそも対立が起きるようなテーマではないため、あまり上昇したとは感じられなかった。
- ・ 工場はにおいがきつく、個性的な人々が働いていたが、仕事は立派な職人であると思った。
- ・ 会議で人の意見を取り入れて別の考えを創り出すことができた。
- ・ 相手の意見ばかり、自分お意見ばかりではなく、しっかりと自分の意見をもった上で、他の人のよい意見も聞く。
- ・ みんなの意見を聞いて、自分お意見と照らし合わせて、良い意見を出すことができた。
- ・ 街づくりについていろいろな意見交換をした。
- ・ ジーンズに対し、高価なものでも良いものをかうことが地域貢献につながると思った。
- ・ インタビューをして、自分の思う久留米の良いところやイメージを持ちながら、岡山の学生の意見を受け入れることができた。

これらの根拠コメントを見ると、専門学校生は相手の意見や感性を理解し、共感しようとする姿勢が表れていた。対する、大学生は、相手の意見を受け入れるだけでなく、調整しようとする傾向がうかがえる。大学生は専門学校生よりも年長者であったため、単に相手の意見を取り入れるだけでなく、それを調整し、ゴールに向かわせようとする様子が見えがえる。

■「課題発見力」が身についた根拠となる事実や出来事

ここでの「課題発見力」とは、社会人基礎力で用いられている内容を用い、「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」を指す。

「課題発見力」でされた根拠コメントは次のとおりである。

(中国デザイン専門学校)

- ・自分の県でも知らない企業など知ったりと充実させることができた。
- ・目的、課題を明らかにし、行動できたと思う。
- ・久留米について知ろうとパンフレットや資料を自ら進んで読めた。またもう少し全体的にビジュアルを発展させた方が良いとも思った。
- ・なるべく他の人の意見を聞くように自分なりに努力しました。
- ・慣れないは初めての土地だったので、うまく現状を分析することができなかった。
- ・ネットで調べた後、現地に行き、分からないところも見ただけで分かる事ができた。
- ・岡山と久留米のことについて、ちゃんと考えることができた。
- ・(課題発見は) なかなか興味をもてること以外では難しいけれど、情報収集はできる。
- ・前は話を聞くだけだったが、自分で調べてみたりするようになった。
- ・その時その時の課題をしっかりと見つけられた。
- ・いろんな方に質問し、自分なりに分析した。
- ・岡山と久留米を比べることで、それぞれの良い点、もっと良くなる点を考えた。
- ・プロジェクトの開始前は、課題を見つけること自体に興味がなかったのが、様々な立場の人のお話を伺って、一つの事柄について深く知りたいと思い、意見を聞くように努力しようとしている。
- ・目的や課題を明らかにするために、現状を見つめ新たな観点を見出す努力をした。
- ・企業の方々のお話を聞いて、今何が行われているかを知ることができた。
- ・聞いた情報を集め、インタビュー時に分析し、発言した。

(久留米大学)

- ・今回は岡山ジーンズを作る過程を見学した。機械で藍染めからジーンズの完成品まで結構手間がかかるので、それは岡山ジーンズが高い理由かなと思った。
- ・デニムストリートを訪れた際に結構歩くのに、飲食できるところが少なかったのも、もう少し観光客の休憩処を作る必要があるのではと思った。
- ・配付された資料やインターネットをもとに、実際にデニム産業に携わっている人の話をきくことができ、資料などには載っていない事を知り、両方の知識を照らし合わせることができた。
- ・何をどうすれば問題を解決することができるかを考えることができたと思う。
- ・「ここがおかしい」ということを見つけることはできるようになったが、そこからどうすればよいかわからないので、まだまだだと思われる。
- ・岡山を訪れて、デニム工場の宣伝力や知名度の低さを感じ、課題だと思いました。
- ・プレゼン資料を考える上で、調査内容を振り返り、分析を行った。

-
-
- ・久留米も岡山も宣伝があまり上手ではない。親世代がしていることでも、今の若者はあまり知らない情報が多い。
 - ・実際に現場を見て、工場が汚いなどの問題点をフィードバックすることができた。
 - ・情報を収集して、分析することができるか、課題を明らかにするためにはまだ時間が必要だった。
 - ・久留米と岡山がどんなものがあるのか、その道に詳しい人に話を聞き、実際にその現場を見ることでどのような人が働いているのかが分かった。
 - ・資料や見学で情報を収集し、質問し、分析（考察）することができた。

専門学校生は、課題を見つけるというよりは、新たな情報を整理するレベルでの活動であった。大学生は、専門外の分野での課題を初めて見るという視点で見つける姿勢にとどまっていたように考えられる。

■今後のキャリアにつながるアクション

最後に、「今回のプロジェクトで得た経験を、今後、どのように学生生活や進路に活かしていこうと思いますか」と尋ねたところ、以下の自由記述が得られた。

(中国デザイン専門学校)

- ・今回のプロジェクトが無ければ、久留米という処や久留米絣など人生で知ることが無かったと思う。この経験をもとにもっとほかの同じような地域と比べてみて、岡山を活性化できればと思う。
- ・今回のプロジェクトで得た主体性や創造力を活かして、今後よりよい製作をできるようにがんばりたい。
- ・今回九州という離れた地域に行ってみて、やはり岡山とは全然ちがったし、歴史を大切にする姿勢という思いがとても伝わってきた。古くからある藍染の技術とジーンズをこれからももっと発展していけたらという思いが強くなった。だから、ジーンズについてもっと学び、知識を他の人たちに伝えていきたい。
- ・今後はプロジェクトで得たことを活かしていきたいと思います。
- ・初めての土地では、自分の知らないことがたくさんありました。その地の特色や情報を把握して、知らないことを学んで知識を増やし、自分の視野を広げたいと思いました。
- ・今まで関わりの無かった大学生と話ができて、一緒に行動することで、いろいろなことがわかった。それを活用して、自分の生活や勉強につなげていきたい。

-
-
- ・ 岡山の見島でしかできないこと、中国デザイン専門学校でしかできないことを誇りにもって、頑張りたいと思う。
 - ・ もっと何事にも積極的になる。
 - ・ 今回のプロジェクトで岡山の繊維産業のことや久留米の藍染めのことなどを知ることができ、とても勉強になった。このプロジェクトで少し成長できたところ、できなかったところを見直し、少しずつでも伸ばしていけるように頑張りたいと思う。
 - ・ このプロジェクトで社会力がさらについてと感じるので、就活を頑張りたいと思う。
 - ・ 学んでいることや周りの環境が違うところに住んでいる人たちと意見交換をすることで、物事を違う目線で見ること大切だと思った。
 - ・ 自分から行動するようにして、話を絶対に聞き、一度聞いたことは二度聞かないようにする。
 - ・ それぞれの地域でしかない技術や歴史を知る事により、仕事の魅力や特色など自分が魅力を感じる職選びができると思いました。
 - ・ このプロジェクトがあるまで、考えることが無いことばかりだったので、考える機会ができて良かったです。
 - ・ 2回の調査で、地域ごとの違いや共通する点などがわかった。もっと広い視野を持ち、知識を増やすことが大切だと思った。
 - ・ 今後は、主体性や課題発見力をより伸ばしていけるよう、まずは物事に積極的に取り組んだり、人に声をかけることを心がけたいと思う。
 - ・ 久留米の繊細な文化に触れ、人間の手で作出す温かい作品に感動した。自分も繊細さを意識すると同時に、よりよいあたたかい作品を作りたいと思いました。
 - ・ 久留米の大学生や企業の方々と交流することができ、様々なことを知る事ができた。また地域についてももっと学んでいかないといけないと思った。
 - ・ 久留米絣という貴重な織物がつくられる場所へ直接伺いました。今後も守られて欲しいです。久留米で学んだ自然の素晴らしさが忘れられず環境を大事にしていこうと思いました。

(久留米大学)

- ・ 今回の調査で、久留米と岡山は地元の産業や文化など良く宣伝することに気付いた。地元の人に買い物意識を高めるために、プレミアム商品券を販売していることに気付いた。私の故郷（中国）は久留米より小さい町だった。もし、久留米と岡山のようによく地元産業が宣伝できるなら、経済状況もよくなるかもと考えている。
 - ・ 地場産業について、プロジェクトに参加する前はネガティブな印象だったのですが、工場の方たちや職人さんには、それぞれ「こだわっていること」があり、それを貫いていると
-
-

ころが、格好良いと思いました。将来仕事をする上で、私も譲れないこだわりを見つけ、それを貫きながら働こうと思いました。

- ・今回、久留米と岡山での訪問調査で自分のすべきことなどをしっかり把握し、行動に移すことの重要性を学びました。今後、就職活動、卒業論文制作などにあたって、自分のすべきことを見極め、できることは全力で取り組んでいこうと思いました。
- ・全く知らない土地の人たちと共に行動し、違った立場の人たちと同じ問題について考えるという貴重な経験ができた。いつも自分が生活している「世界」を出て、「違う世界」をみるということは、自分たちの「世界」を改めて知るきっかけになることも分かった。違った意見、考えも否定せず、受け入れることはこれからの生活で自分の視野を広げる手助けになると思う。
- ・初めて合った人でも上手に話し、意見交換ができる対話力のスキルをもっと活かし、例えば面接でも失敗しないような読経を身につけられたら良いと思いました。
- ・いつも身近にあるジーンズについて、こんなに学ぶきっかけは今までなく、今回のプロジェクトがなければ、今後も学ぶことは無かっただろうと思います。物があるということは、誰かが作り出しているのだと、いつも感謝の気持ちを持ち続けることが必要です。学生生活において、自主的に物事に取り組むこと、就職活動においても活用していこうと思います。
- ・全く知らない人と会ってもすぐに打ち解けることのできる能力は、将来営業職に就く際にかなり使えるので磨きをかけたい。
- ・同じ地方同士で交流し、調査を行った。観光が盛んな地域以外でも魅力があると強く感じた。まだ岡山に来たことが無い人より、岡山のことを深く知ることができました。岡山以外にも、他の地方に行き、調査したいと思いました。
- ・今回のプロジェクトで得た経験を、これから社会に出る上で大事なコミュニケーション能力を活かしていこうと思いました。
- ・大変勉強になった。少し準備が足りなかった。理論知識があるが、現地調査で実際に調査するときには、欲しい情報を探すことが難しかった。理論だけでなく、実践も重視しなければならない。
- ・実際に足を運び、現状を調査から知ることによって、見えてくる課題があった。それをフィードバックすることにより、改善できる部分が見えてきたので、KJ法は有効活用していきたい。
- ・久留米調査では、岡山の方々をおもてなししたことで今自分がどのようにすべきか考えて行動できるようになった。今後はより積極的に行動していけるようにしていきたい。

短時間で2つの学校種の学生が、同じ課題を共有し、企画・改善策を考えるというテーマのおかげで、相互にかなり意識して歩み寄るための姿勢やコミュニケーションが必要であったことが伺える。

5. まとめ

異なる学校種、異なる専門分野、異なる地域、異なる学年に対し、同じテーマ、同じ内容、同じレベル、同じボリューム（時間）の授業を一緒に行うという試みであった。企画・改善案では、それぞれの特徴が表れた成果物がプレゼンされたが、そのプロセスにおいて、相互交流では「柔軟性」が必要であるということが明らかになった。このプロジェクトを通じて、学生間で一緒に課題を解決しようとする姿勢やコミュニケーションの取り方が随所に見られた。

当初、専門学校と大学、職業教育と教養教育的な学問という分野の違いは、それぞれの良さを再認識する場へと変わっていった。学校種の垣根が懸念されたが、プロジェクトが進むにつれ、その不安も解消された。短期間に同じ課題を解決しなければならないことで、学生たちは相互の協力しなければならなくなったからである。先入観を持たない学生たちは、学校種という垣根を軽く超えてしまう力があったのである。

また、地元の良さを相手に伝えるために相互に自分の地域の良さを再発見する機会にもつながった。それは、学生だけでなく、このプロジェクトを成功させるために何度も密に連携を取りながら、プログラム策定を行った教員間のFDにも寄与したものと考えられる。それぞれの専門分野の背景を活かしたアクティブラーニングになったことが、今回の成果につながる大きな要因であったと考えられる。アクティブラーニングはあくまでも応用・発展科目に位置付けられる授業法である。専門を通しての実習・演習という形をとるほうが、学びを深化させることにもつながるものと考えられる。

【参考文献】

- ・経済産業省（2007）「平成19年度版 社会人基礎力育成・評価のためのリファレンスブック」<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19reference.htm>（2015年10月15日取得）
- ・一般財団法人全国大学実務教育協会（2015）「実践キャリア実務士」教育課程から始める到達目標達成度評価表（ルーブリック）による新たな質保証方法について」<http://www.jaucb.gr.jp/news/index.php?mode=view&id=120>（2015年10月15日取得）

6.産地コラボレーション実証講座評価

1. 新たな取組

本プロジェクトにおいてはこれまで、デニム関連の教育プログラム開発が中心であったが、今回久留米大学の協力を得ることでこれまでに無い学生の意識向上に伴う比較研究が可能となった。通常、専門学校学生と大学生が共に学ぶことはあっても、異なった地域の学生による異学種交流はあまり例を見ないものであった。デニム・ジーンズの特徴と久留米緋の特徴を地場産業という目で統合して各自に理解させる手法は奇抜とも捉えられるけれども、他者の目で地元を理解することの大切さを学ぶことが目的である。

2. 今回の特徴

今回目指したものはデニム・ジーンズに対する岡山と久留米での評価の違いを確認することであった。通常考えると岡山の地場産業を遠く離れた久留米の学生に評価してもらうことは、不十分な情報により異なった評価結果が出ることが予測されるからである。確かに若い学生はデニムに興味があり、ファッションとして着ることは全国に差は無いものと考えられるが、産地である岡山の学生とそれ以外の地域の学生には知識の差があると予測されたからである。ただ、世界的に販売されているデニム・ジーンズの商品開発に関しては国境も地域差も無いものであり、若い人々がどう判断するかが問われるところである。

3. 効果

通常は交流のない異なる学校種間での交流であるが、今回の手法により学生達は短時間で打ち解け、互いに自分たちの役割を果たすことができた。今回用いた交流プログラムにより目的達成行動を容易く体験できると共に、コミュニケーションを取る必要性から学生達は意識していなくても気がつくようになっていた。各自の目的を達成する過程において自分の意見と相手の意見を聞き分けてまとめることによって、他人の言葉を使ってまとめることを身に付けることができたと言えよう。これは「ちょっとした気づき」ではあるが、現代の若者には欠けている能力である。

4. まとめ

デニム・ジーンズの商品開発に欠くことのできない消費者のニーズを集めるための手法として、今回の交流プログラムは非常に有効であった。売れる商品を開発することは非常に難しいことであるが、その手立てとしてのコミュニケーションプロセスを身に付けることができれば、その情報収集能力は新たな商品開発の手段となるものである。今回の事業でマーケ

ティングを始め、売れ口の商品開発のプログラム作成には非常に効果のある結果をもたらしてくれたと言えよう。

さらにこの効果について研修後に能力ルーブリックによる評価を行ったところ、参加した両校の学生の多くに社会人基礎力で要求されている8つの能力の向上が確認された。久留米大学の学生は柔軟性、課題発見力、情報収集能力が特に高くなり、中国デザイン専門学校の学生も柔軟性、課題発見力、社会を知る力が特に高くなっていた。この結果は驚きの効果であり、仕事の現状を実際に見て理解することは人間能力の向上につながることを確認できた。この手法はあらゆる分野で応用可能であろうと推測されるので、実習を伴う実学演習をさらに拡大する必要がある。

(プロジェクト実施委員長 平田 眞一)



第5章 次年度以降の取組

●グローバルクリエイターの育成

市場・環境等を含め、グローバルに展開できるクリエイターの育成が必要である。

ジャパンデニムは、その品質において高い競争力を有しているが、日本のデザイン教育における「販売先の国の文化や適正価格、関税・輸送コスト等のマーケティングとマネジメントの知識」の強化が必要である。

また、語学（特に英語）については、別途、教育基盤整備に取り組む必要がある。

●産地コラボレーション

本年度新たな試みとして行った産地コラボレーションは、ものづくりの人材育成で最も大切である実地での経験を積む機会の提供として、今後も継続的にじっそを行う。

学生の意識や意欲、コミュニケーション等の社会人基礎力の養成、また、グローバルな視点の醸成に効果の高い取り組みである。

●産学連携の強化

本事業で実施した、工場見学・実習等を継続的に実施できる企業との連携体制の構築と関係強化が課題である。

●学び直し

社会人、女性等の学び直しの講座においては、企業人材ニーズの把握も重要であるが企業との連携により人材育成を効率よく行うことが求められている。人材活用に積極的な企業との関係強化を推進する。また、成果物の企業内教育への活用を推進する。

●教育の質保証と第3者評価

教員の育成、特に産業界の実務経験と技術の進化に対応する育成プログラムが必要である。

また、企業が認める教育目標と達成度評価指標に基づく教育内容の整備と、教育の質保証への取り組みが重要である。

教育目標の明確化、これまでの教育目標とグローバル化を前提とした職業教育の能力体系の他国とのレベル合わせや情報公開が今後の課題である。

久留米大学学生
産地コラボレーション演習の調査報告書

岡山訪問調査報告書

情報社会学科 3 回生 田中しおり

1. デニムの町岡山

岡山に研修に行く前にインターネットを使って、岡山について調べた。すると、岡山はおとぎ話の「桃太郎」にゆかりがある土地であることを知り、「岡山城」や「後樂園」など、インターネットで出てくる有名な場所は、歴史がある場所が多いため、岡山は、「ジーンズの町」というより、「歴史が深い町」というイメージであった。

2. 気付かれないジーンズ工場

ジーンズについて学ぶために、岡山の有名なジーンズ製造工場に訪れた。どこの工場もとても立派で、ジーンズが出来る工程も興味深く、特に、美東有限会社は外観もユーモアがあり、ジーンズに興味がない人でも会社の風貌などを見て、魅力を感じるのではないかと思った。

しかし、どこの工場も、岡山駅から離れたところにあり、交通の便もあまりよくなかった。また、調査の初めに配布された岡山のパフレットにも、ジーンズについて触れているものが少ない印象があった。初めて岡山を訪れる人は、ジーンズ工場の存在すら知らない人は多いのではないのかと感じた。



3. キーワードは「染まる」



この「染まる」というキーワードはジーンズ製造工場で見ている人たちを見て感じたことである。ジーンズ製造工場で見ている人達の作業着や手を見ると、藍色に染まっていた。これは長年、ジーンズを扱っているのであれば当たり前かもしれないが、「染まる」のはジーンズだけではなく、人も同じで、ジーンズを作る側もジーンズの魅力を作りながら知っていくのではないのかと思った。近年では、若者のジーンズ離れが話題になっているが、ジーンズを知る機会があれば、若者がジーンズに「染まる」こともあるのではないかと考える。

4. ジーンズストリーの街並み

今回の訪問調査で「ジーンズストリート」は、ただ、ジーンズショップが並んでいるだけではなく、家庭の洗濯物を干しているかの様に通りにジーンズを吊り下げていた。これは、ジーンズ産業が栄えている岡山だからこそ出来ることだと思う。



5. 歴史が深い

デニムと久留米緋の共通点は、どちらも歴史が深いということである。どちらもかなり昔から作られたものであるが、その文化は現代にも受け継がれている。久留米緋の後継者問題や、ジーンズ産業の衰退など問題はあるが、現代まで残っているということは、どちらも人々に愛され続けたものであるということに変わりはないと思う。

1. 岡山の印象

岡山のイメージは「桃太郎」と倉敷の「美観地区」の2つのイメージだった。
景色がきれいで秋なら、紅葉が綺麗だというイメージを抱いていた。

2. 岡山現地調査で気づいたこと

この調査を通して、気づいたことは「日本技術の素晴らしさ」である。真面目で几帳面な日本人特有の細かい手作業で、制作にはとても手間がかかっていた。

デニムの作り方から加工まで普段見ることのできない世界があった。株式会社ショーワでは、デニムをつくる機械を社長さんが設計したと聞き、驚いた。ほとんどが手作業でダメージをつけたり、加工したりしており、日本技術の素晴らしさを見ることができた。

ジーンズミュージアム&ヴィレッジでは、デニムの歴史を知り、昔のミシンなどが珍しいものがたくさんあった。来る前の岡山県のイメージにはない、アメリカンな雰囲気がそこにはあった。児島ジーンズストリートは、近くに旧野崎家住宅があり、和と洋の融合で1本の道にたくさんのデニムを扱った店が立ち並び、独特な雰囲気があった。



3. 岡山を表すキーワード

- ・高い日本の技術（デニムの製造・加工の技術は世界に誇れるものである。）
- ・桃太郎（街中や桃太郎ジーンズ、お土産など岡山県の知名度に繋がっている。）
- ・デニム（デニム工場が多くあり、高い技術に裏打ちされたデニム作りがある。）

4. 他の地域と比べての岡山の強み

- ・日本の伝統ある技術がある。
- ・空気が綺麗で、開放的である。
- ・デニム工場に若い人がいる。（技術がなくなるらない）

5. デニムと久留米紬の共通点

(強み) 日本の伝統技術の高さ。手間暇かけた細やかで、高い技術。

(課題) 技術を受け継ぐ若者が少ない。若い人がその価値を理解していない。

1. 岡山に来る前のイメージ

岡山は桃太郎の故郷で、桃が非常に有名なところというイメージしかなかった。しかし、久留米調査の際に中国デザイン専門学校の横田美帆さんがペアインタビューで「岡山は久留米とちょっと似ている感じだ」と話していた。

5年前に来日して、この5年間私はずっと久留米に住んでいる。そして、久留米は静かで住みやすい町だと思っている。岡山は久留米と似ているから、岡山も伝統的な町だと想像していた。そのため、デニム・ジーンズの町やファンションなどのイメージは持っていなかった。

2. 岡山調査で気づいたこと

印象に残ったことものがたくさんある。例えば JR 岡山駅。駅にある乗り換え線から、岡山は交通の要衝（中国地方と四国地方）として発展していることが分かった。乗り換え線がそんなにたくさんあって、駅の前に岡山を象徴する桃太郎一行の像もある。非常に立派な駅だと思った。

また、2009年に『ハンドル賞』を受賞したテキスタイルメーカーの株式会社ショーワである。原材料は世界各地からの綿で機械を使って藍染をする場面は非常に印象的であった。久留米絣も藍染であるが、それは機械ではなく伝統技法で作られる。岡山の藍染めを現代的なファンションに例えるならば、久留米の藍染めは昔のファンションであろう。

3. 岡山を表すキーワード

キーワードとして、デニム・ジーンズの聖地や高品質、Made In Japanなどの言葉が挙げられる。児島のジーンズストリートも私の印象に残っているところである。そこはジーンズの商店街であり、地元のジーンズメーカーのショップがたくさんある。ブランド数も多いし、コンセプトやタイプも様々である。

岡山のブランドの1つの特徴として、製品の価格が高いということがある。価格が高くなっている原因は高品質の商品が多いからである。この点について、「縫製・加工などの工程が岡山で行われているだけでなく、こだわりの国産デニム生地を使っているブランドが多いため、品質が高く、そのぶん高価格になっている」という考え方がある。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

他の地域と言っても、私はずっと久留米に住んでいるので、久留米と比べて、岡山が良いと思うところを述べたい。確かに久留米は静かで住みやすい町であるが、久留米での悩みの種の一つに車が多いことに対して道が狭いということではないだろうか。この悩みは岡山では存在しないと思う。岡山の道は広いし、路面電車もある。それがあれば岡山の交通は久留米よりずっと便利であろう。実は私は路面電車の実物を見るのは今回が初めてであり、いつかそれについての調査を行いたいと思っている。

5. デニムと久留米紬の共通点

デニムも久留米紬もやわらかく丈夫な綿の織物であり、この二つの素材でジーンズを作ることができる。しかし、デニムと久留米紬の最も大きな共通点は藍染めにあると思う。

1. 岡山に来る前の街のイメージ

高校時代に友人から岡山のお土産としてもらった吉備団子のイメージが強かった。また、親戚が岡山に住んでいて果物をよく送ってくれるので、果物の生産が盛んな地域というイメージもあった。

中学生の頃、テレビでジーンズストリートの特集をしている番組を見た記憶もうっすらとあり、ジーンズの聖地というよりも「岡山にはジーンズストリートという通りがある」という印象を持っていた。



2. 岡山調査で気づいたこと

岡山の印象は田舎すぎず都会すぎずで、米の街の雰囲気と似ていると感じた。また、で会う人々は優しく暖かい方が多かった。このプロジェクトで共に参加した中国デザイン専門学校の方々ともたった 4 日間の交流だが、想像を超える仲の良い関係を築き上げることができた。プロジェクトに参加しなければ会うことのなかった他の地域の仲間だと思うと、それだけでも参加した意義を感じた。

工場見学では、普段何気なく着用しているジーンズの生産工程を 1 から見ることができ、1 本のジーンズを作りあげるのに沢山の人の思いや努力が詰まっていることを知ることができた。

美東有限会社では私も知っている身近なブランドのジーンズを袋詰めしている場面に出会うことがあり、「ここから生まれたジーンズだったのか」と親近感が湧いた。ジーンズ工場の見学を終え、世の中にある物は様々な人々のおかげで生まれているのだと、ものづくりのすばらしさに感謝の気持ちを持った。



久留米
岡山
今回
専た



3. 岡山を表すキーワード

- ・吉備団子…とても好きな岡山のお土産だから。
- ・住みやすさ…久留米に似ていることから、岡山の街の雰囲気も住みやすそうな印象を受けたから。
- ・伝統のある街…世界に誇れるジーンズの産地であり、その生産技術は受け継がれていくべきであるから。

4. 他の地域に比べての岡山の強み

岡山の場所は、九州にも関西にもすぐ行ける丁度良い所に位置している。そして岡山の人々は思いやりのある方が多く、久留米でいう「ほとめき」（おもてなし）のマインドが岡山にもあった。なにより世界に誇るジーンズの産地であることは、日本の誇りだ
と思う。

5. デニムと久留米紬の共通点

一つ目は、どちらも世界に誇る技術によって作り上げられていることである。二つ目は、その技術を受け継ぐ人が必要であること、そして三つ目は、長い間、製品を高い品質のまま使用することが可能であることである。

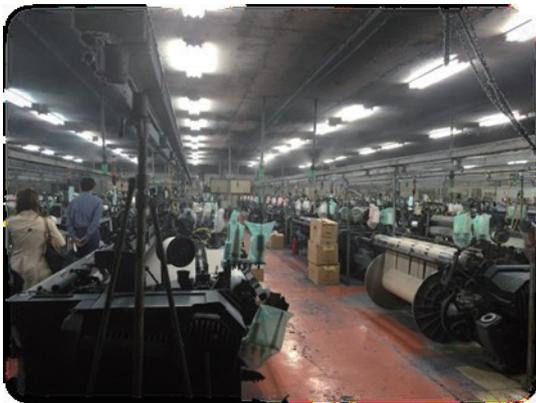


1. 岡山は久留米のような町

岡山駅に到着するまで、岡山は久留米のようにどちらかと言えばローカルなイメージが強かった。広島には行くことはあるが、岡山まで行く機会は今まであまりなかった。実際に岡山駅に到着すると、10 年以上前に訪れた時の記憶とは異なり開発が進み変化していた。ビルが多く並び、駅の近くには大きなショッピングモールもあった。到着するまでに思い描いていたイメージとは全く異なり、岡山は街というイメージが変わった。また、グルメでは、お土産に欠かせない『きびだんご』のイメージが強かった。

2. 本当の岡山 –日本人ならではの技術を持つ岡山–

今回の現地調査で気づいたことは、デニムは一つ一つきめ細やかな工程を手作業で行う日本人ならではの技術の素晴らしさであった。ダメージ加工やレーザー加工はとても印象的であった。ジーンズ工場の職人さんは「一つ一つが手作業なので同じジーンズはない」と話されていた。工場は機会の大きな音や染料などの独特な匂いがしていた。



3. デニムの町 –きびだんごから

デニムのイメージにー

岡山に訪問する前は、「岡山＝きびだんご」のイメージしかなかったが、実際に岡山に足を運んでみると、31もあるデニムショップの多さに驚いた。今回の調査で岡山のイメージがデニムの町に変化した。

4. ジーンズストリート –岡山ならではの雰囲気–

岡山のジーンズストリートは、他のどの県にもない岡山だけのとっておきの場所である。町並みの雰囲気は湯布院を思わせるのどかさの中にデニム・ジーンズのお店が31店舗も並ぶ。他にも、岡山ではデニム・ジーンズの工場見学もでき、アウトレット商品を買うこともできた。町全体がジーンズに関連しており、この場所の雰囲気がとてもいいなと感じた。

ストリートの中に飲食店がもっと増えると観光客にも優しくなり、もっと活気のでるストリー

トになるのではないかと考えた。



5. 藍染・興味を

持つ若者の減少

デニムと久留米絣は藍染をキーワードに繋がっている。どちらも藍で染めていく技術を大切にしている。デニムと久留米絣にとって藍という染料は必要不可欠である。

しかしこれらの伝統に興味を持つ若者が減少してきていることもこの2つの地域が抱える共通の課題でもある。



岡山のジーンズ産業について

情報社会学科3回生 梅野理子

1. 岡山に来る前のイメージ

当初イメージも浮かばない位に岡山を知らなかった。「大阪京都に行くまでの通過点」くらいの知識しか持ち合わせていなかった。広島の前であり、大阪の手前のため周りの県の影響を受けて「久留米よりは都会だろう」くらいであった。お土産も「きびだんご」というワードがたくさん出てきたので「桃太郎が有名なのだろう」くらいのイメージであった。

2. 岡山調査で気づいたこと

岡山は大変コンパクトのある街であった。岡山駅の中には言わずもがな商業施設やお土産屋さんなどがあり、にぎやかだったが、児島など一歩離れた所に行くと自然豊である。地域で発展した特産品がしっかりと根付いている地域だと感じた。

3. 岡山を表すキーワード

「自然と都会が融合するものづくりの街」が岡山のイメージキーワードである。少し長いキーワードだがこの一言がピッタリではないかと考える。都会は、岡山駅、岡山市周辺のことを指す。そして、自然は、児島を始めとした岡山市郊外を指している。児島はジーンズ産業が盛んで工場やジーンズロードなどがあるが、周囲の山々は紅葉が赤く色づいており、すぐにでも自然と触れ合うことができる。このように都会と自然との融合がうまくできている街だと考える。

「ものづくりの街」というワードは「ハレマチ特区 365」というパンフレットを見てのことである。パンフレットにはジーンズを始めとする、倉敷いぐさ、玉島だるま、倉敷手まり、倉敷結紐など、様々な工芸品があり、伝統が県全体に息づいていることが伝わってくる。伝統が根付いているだけでなく、その他にも様々な品物がブランドとして成り立ち存在している。伝統と産業が長く続けば続くほど、ものづくりのブランド力がより強まるのではないかと考える。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

岡山県には特産物が多く存在している。中でも注目したのが「三宅商店のm t（カモ井加工株式会社）」である。m t通称マスキングテープなのだが、ここ数年ノートのデザインや手紙の包装など、様々な場面でおしゃれ好きな女性や、可愛いのが好きな女性に人気があり、多く使用されている。私もマスキングテープをあまり使う機会がないのにも関わらず、m tは柄が可愛く思わず何個も買ってしまった。その有名なm tが岡山で生まれた会社だということは知らなかった。他にもパンフレットを見ているだけで購入してしまいたくなるような品物が沢山あり、「いいね」と賛同できる商品が多かった。

久留米も餅を始めとした工芸品はあるが、はっきり言って若い人を対象とした特産品やグッズが皆無に近いと感じる。それと比べると岡山は老若男女問わず、購買意欲をそそる品々が多く存在しているところに商品力の強みがあると考えられる。

5. デニムと久留米緋の共通点

まず、「藍染め」が共通点として挙げられる。地場産くるめを見学した際に藍染めの説明や工程のビデオを観ていかに手作業が大変なのかを学んだ。ジーンズは大量生産に適した工程で染める作業を機械で行うが、「藍染め（インディゴ）」という点ではたいへん貴重な共通点だと考える。作る工程に共通点があれば、互いに良いところを参考にでき、さらに別の産物が生まれるかもしれない。

次に「手作業」という点が共通点として挙げられる。訪問調査前のデニムのイメージは、大量生産で全工程を機械で行い、人の手は全くと言っていいほど加わっていないものだと思っていた。それに対し、久留米緋は手作業が多く、長い時間をかけて一つの作品を作り出している。作る際にデニムは人間の手が加わっていないと思っていた。しかし、その考えは大きく違っていた。

「美東有限会社」では、機械が作るデニムではなく、人が作るデニムであった。デニムに付ける皺のあと、ダメージ加工、汚れ等デニムの加工全てが人の手により作られているものであった。一人ひとりが自分の役割をもち、作業分担をした上で出来上がっているデニムは、時間をかけた久留米緋となんら変わらない日本人が手掛けるものづくりであった。

1. 岡山に来る前のイメージ

私自身が岡山にスノーボードをするためによく行くので、自然豊かなイメージが強かった。都会というより田舎に近いイメージだ。それも岡山市外のイメージであるため、岡山市内へのイメージも勝手ではあるが田舎なのだろうと想像していたのが本音である。他には、桃太郎、吉備団子があるというイメージぐらいしか持っていなかった。

2. 岡山現地調査で気づいたこと

最初に感じたことは、岡山は自分が思っていたよりも都会だということだ。新幹線で岡山駅に到着すると、多くの高く聳え立つ駅前のビルや、ショッピング街などを目の当たりにした。福岡の博多や天神などの繁華街と同様だった。自分が知っている自然豊かな岡山のイメージとは異なる風景が広がっていた。

次に感じたことは、観光地としての岡山の素晴らしいホスピタリティである。岡山市内の観光地と駅の連携がものすごくスムーズかつアピール・宣伝がうまいということだ。岡山を一人で回ろうと思い、観光案内所に行くと、まず案内所が二つあり、その両方がともに年中無休で2人以上のスタッフが常にカウンターにおり、パンフレット、ポスターが所狭し置かれている。何も調べずに初めて岡山に来た人が居たとしても、岡山に何があるのかが一目でわかるだろう。さらに、そのパンフレットにはクーポン・割引券（例：後楽園入場料金割引など）と一緒に掲載されていて、観光への意欲を増幅させられる。案内所のスタッフの対応も凄かった。その人自身の今日の宿泊施設の位置、予定、時間などを考慮し、その人自身が一番楽しめる観光プランを提案し、分かりやすく行き方、帰り方までも丁寧に教えてくれる。岡山の観光地と駅の連携は、とても驚かされた。

そして、岡山の交通の便の良さにも驚かされた。市内には、バスはもちろんのこと、路面電車も走っており、両方ともに5分おきに次の便が来るダイヤになっていた。さらに、路面電車のホームには電子掲示板があり、次の電車が何分後に来るのか分かりやすく表示されていた。

岡山のジーンズの歴史や工場の見学を通して、岡山は国内外の文化や技術を積極的に取り入れている印象が強かった。

3. 宣伝上手のおもてなし

岡山は本当に宣伝するのが上手だと感じた。そして、その PR から実際に観光地に行ってもらうための多くの工夫がなされていることを多々感じた。案内所の場所、営業時間、スタッフの対応、すべてが観光地に行ってもらうために積極的かつ無駄のないスムーズな案内に感じた。そして、実際に観光地に行っても多くのイベントをするなど、各観光地も来てくれたゲストのために頑張っていると感じた。そして観光地同士も互いに宣伝しあっており、繋がりがしっかりできていると感じた。

4. 個人的見解としての岡山の「いいね！」

岡山は他の県に比べていいところが多々ある。今回は自分の地元の佐賀と比べてみた。岡山

は佐賀に比べて本当に交通の便がいい。市内なら自家用車がなくても生活できるのではないかと感じた。

全国に知られている特産物が多くあるところが佐賀に比べていい。吉備団子をはじめ、桃太郎や桃、ジーンズも含め一目で岡山と分かる特産物があるのは他県との差別化という点で強みである。

5. 「藍」と職人の「愛」

岡山のジーンズと久留米絣の共通点は、やはり「藍」染めにあると思う。久留米は天然物、岡山は人口物という違いはあるものの同じ「藍」という色、雰囲気、あじなどを互いに最大限に引き出している。

そして、もうひとつの共通点は、互いの職人さんの商品への「愛」である。久留米の工房、岡山の工房の2つの工房に見学したが、工房内や過程を教えてくれた職人さんはどちらも、自分の子どもの自慢をするように、こちらが質問した時も嬉しそうに答えていた。もちろん技術や長年の経験など、全国に知名度の高い商品を生み出した職人技を持っていることはもちろんである。それ以前に職人さんたちの「藍」に対する「愛」が商品力を高め、多くの人々に受け入れられるになったのではないかと考える。

1. 岡山に来る前のイメージ

この訪問調査で訪れるまで岡山県には行ったことがなく、どんなイメージがあるのかさえつかめていなかった。ただ何となく久留米と同等か、あるいは少くくは都会ではないかというおぼろげなイメージであった。

2. 岡山現地調査で気づいたこと

まず、岡山という地域的特色だが、全体的に土地が広く、交通面では整備が行き届いている。町も活気があり、交通量も久留米顔負けで、やはり大都会という感じであった。

しかし、どこのお店も「製造過程は撮ってもいいが、ロゴは撮らないでほしい」という店が多かった。知的財産権の問題もあると思うが、自分たちの商品をあまり外に出したくない、といった閉鎖的な印象を受けた。

3. 岡山を表すキーワード

岡山県のキーワードは、まず「うどん」である。山県はデニムのほかにもうどんが有名であり、本香川県と引けをとらないほどである。「セルフうどん」と「ぶっかけうどん」のシステムは、岡山県祥であった。なぜうどんが有名になったかというデニムに関係していた。その理由は昔デニムジューズの生産に力を入れ始めたころ、たくさんの人がそのデニム関係の仕事を求め岡山県に集中し、その人たちに向けてたくさんのうどん屋が出店したことがきっかけで今に至るそうである。このようにデニムが栄えたからこそうどんが普及し、うどんがたくさん生産されたからこそ、デニムもまた活気づいたという関連性があった。



岡
場
ど
発
と
ン

4. 他の地域と比べの岡山の強み

前述のとおり、道路などの交通に関して十分に行き渡っているところと、それに後れをとらないきちんとした交通整理である。特に駅前は大変混雑するところであるが、久留米市の駅前のごった返しているのに対し、岡山県の駅前には各車線に対する誘導線が引かれてあり整然としていた。原付専用の線まで書いてあるのには驚きであった。

5. デニムと久留米餅の共通点

デニムと久留米餅の共通点は、どちらも藍染を使っている点であり、どちらも昔ながらの技術と現在の技術、どちらも織り交ぜて後世に伝えていこうという姿勢である。地域振興のため、その伝統の保持のため奮闘する姿は美しく、どちらも残していくべき伝統である。

1. 岡山に来る前のイメージ

桃太郎が有名であるため、桃や吉備団子の印象が強かった。また、本州にあるので都会なのだろうと感じていた。しかし、実際行ってみると久留米のような風景の街並みもあり、自然にも恵まれていた。

2. 岡山調査で気づいたこと

最初に岡山に来て感じたのは、道路の車線がとても細かく整備されていることである。久留米は道が狭く、道路の白線等が消えかかっているところもあるが、岡山は対照的と言っていいほど綺麗に白線が引かれていた。しかし、あまりその線を守っている車が少なかったのはもったいなく感じた。

3. 岡山を表すキーワード

岡山のキーワードは「ビジュアル」である。ジーンズストリートでは、道路がジーンズ色に塗ってあり、街並みはジーンズが干してあるようなオブジェや、おしゃれな形の建物があり視覚でも楽しめる空間となっていた。他にも、岡山駅の球体型の噴水や、近代的な外観のイオンモールからもビジュアル的なイメージを受ける。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

自分たちが推したいものをジーンズストリートなどのように、形にして表現することができるのはクリエイティブでとても良いと思った。

5. デニムと久留米紼の共通点

共通点としては、デニムも久留米紼も「一度は流行のファッションとなった織物だ」ということがまず挙げられる。デニムは労働着として誕生し、久留米紼は井上傳の発明で誕生したと伝えられている。誕生した経緯と年代は違うが、どちらも民衆の間に広く広まったのは事実であり、それは大きな共通点である。

製品の特徴から見ると、どちらも色落ちなどの経年変化を「味」として楽しめる布製品だということがある。これも共通点として挙げられるのではないかと考える。

1. 岡山に来る前のイメージ

岡山は桃やぶどうが名物だということから、久留米でいう田主丸のような長閑な場所だと思っていた。しかし、訪れてみると岡山駅周辺は、人通りも多く、大きなショッピングモールが建ち並んでいて、想像以上に栄えていた。久留米よりも博多に近い都心部の街並みであった。

2. 岡山調査で気づいたこと

最も印象に残っている訪問先はジーンズ加工をしている美東有限会社である。ダメージジーンズや加工が入ったジーンズが好きでよく着用しているため、とても興味深かった。自分が普段穿いているジーンズがこのような形で加工されているのかと近くで見学することができ、その技術と生産工程は大変勉強になった。

3. 岡山を表すキーワード

岡山のキーワードとしてはまず「デニム」である。様々な工場を見学したが、やはり岡山はデニムの街なのだと実感させられた。また、ベティスミスの施設には、海外からの観光客も訪れていることから、これからさらに世界に岡山のデニムが広まっていくことを期待している。

二番目は「桃太郎」である。私が岡山と聞いて最初に浮かんだものが桃太郎だった。岡山駅の前には桃太郎の銅像があり、多くの人が集まって写真を撮っていた。また、桃太郎ジーンズという有名なブランドの名前にも使われており、桃太郎というのは岡山を象徴するものなのだと再認識した。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

私が岡山に来て、いいなと思ったことは、都市化しているところと長閑なところが別れているところだった。岡山駅周辺は、ショッピングモールがあることから、若者が非常に多く、現代的な場所だった。しかし、デニムの工場などがあつた児島は畑や田んぼが多く、少し田舎で落ち着いた雰囲気のある場所だった。今、地方から若者が減っていると問題にされているが、岡山は若者でも住みやすいと思える街なのではないかと思った。

5. デニムと久留米絨の共通点

今回の調査で、デニムも久留米絨も繊細につくられているのだということが分かった。デニムの生地制作には多くの工程があり、工場を見て回った際もたくさんの機械があり、大変な作業であることが分かった。

また、久留米絨は、ひとつひとつの作業に時間がかかる。藍染めの工程では、何度も染めて、あの綺麗な藍色にしていることを調査から学んだ。どちらも手間暇かけてつくられている素晴らしい伝統ある産地の名物という共通点を持っている。

1. 岡山に来る前のイメージ

事前に岡山に本社のある企業を調べたが、知っている企業はベネッセのみだった。ベネッセの本社があることから、幼少期から学習意欲が高い地域ではないかという印象を持った。次に日本三大庭園の後樂園がありという印象である。中国地方は移動の際の通過点になりやすのではと思った。「のどか」という印象を持っていた。

2. 岡山調査で気づいたこと

デニム工場見学などを通して気づいたことは、桃太郎ジーンズなど一本当たり 3 万円の高級ジーンズもあれば、アウトレットで販売されている一本 2000 円程度のジーンズもあり、ジーンズと一括りにできない価格の幅が広いことである。ジーンズ工場をいくつか訪問したが、伝統を重んじているような古い工場から、若者が音楽を聴きながら明るくラインを組んでいる工場など、工場にも様々なタイプがあり、それぞれ特色が出ていて面白かった。

3. 岡山を表すキーワード

キーワードは、「ジーンズ」と「桃太郎」である。「ジーンズ」については、ジーンズ工場の多さ、そして井原・児島・倉敷など地域ごとにそれぞれがジーンズで有名であることから、ほかの県には絶対負けないこだわりを持っているのだろうと感じた。

「桃太郎」については、書物が見つかっていること、JR 岡山駅には桃太郎の銅像が立っていることなど至る所で桃太郎を目にすることが多かったので岡山を象徴するものだと考える。

桃太郎ジーンズはどちらのキーワードも入っているので、岡山を象徴するには最適なワードだと考える。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

JR 岡山駅と、駅の間合いにあったイオンを少し散策したのだ、買い物するとしたらこの二つで十分だし、駅周辺で一日過ごすことができるという利便性の高さが良いと思った。他に、四国や兵庫・大阪へのアクセスがスムーズで良いと思う。また、街を歩く人がお洒落で久留米と比べると上品に感じた。

5. デニムと久留米紆の共通点

共通点として二つほど挙げられる。一つ目は、伝統を重んじていると同時に革新を目指しているところである。デニムはいろんな形に進化しており、小物としても商品化されている。久留米紆も同様に、小物や若者向けの浴衣が売られている。

二つ目は、若者の稼ぎ手を求めているということである。双方とも、若手の職人不足という問題を抱えていた。若手の人材が確保できなければ、伝統の継承にも問題が出てくるであろう。

今回の調査で、これらの伝統品は、地域の象徴としても、町おこしをするにあたってもとても重要だと感じた。職人不足などの問題点の改善に向けても今後注目していきたい。

1. 岡山に来る前のイメージ

岡山は桃の生産地として有名である。そして NPO が発表した「田舎暮らし希望地域ランキング」で岡山県は 2012 年度 2 位、2013 年度に 3 位にもランキングしているということを資料で調べた。また、桃太郎ジーンズというブランドのジーンズは欧米でも人気で、値段が高いジーンズであるということである。

2. 岡山調査で気づいたこと

今回の調査で印象的だったのは、株式会社ショーワ、美東有限会社、ジーンズの博物館、児島ジーンズストリートの見学である。株式会社ショーワは織物を作っている専門会社で、デニムやダンガリーなどのカジュアル布地が中心である。そこは久留米絣の藍染と違い、大量の機械を使っていることで、労働力の削減が行われていた。美東有限会社ではジーンズの縫制、加工を見学した。特に擦り、破きの工程を初めて見た。普段着ているジーンズはこうやってできていることに驚いた。ジーンズ博物館では、ジーンズを作るためのミシンをたくさん見学した。オーナーさんから、ジーンズを作り終わるまで、11 種類のミシンを使う必要があると聞いた。そして、博物館では、ジーンズサンプルもたくさん展示されていた。また、別の博物館では、ジーンズを作る過程を紹介していた。そこではジーンズの擦り体験ができた。ほかには体験工房、工場とアットレットもあった。値段は学生にとっては高価格であった。

3. 岡山を表すキーワード

ジーンズの町、桃がおいしい、工業都市などのキーワードが挙げられる。岡山のショップでは、よく白桃が売られている。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

久留米より交通が便利である。そして、布地を販売するところが多い。

岡山の主婦たちはハンドメイドが、他の地域より上手だと思う。

5. デニムと久留米絣の共通点

久留米と岡山の共通点は藍染だと思う。布で衣装を作るところも共通点である。

相違点は、久留米絣のほうが伝統的、デニム製品のほうがファッション性が高いと思うところである。

1. 岡山に来る前のイメージ

岡山に来る前は、ジーンズのイメージなどは全くなく、やはり童話「桃太郎」のイメージが強くあった。きびだんごが名物で和風かつ古風な田舎の街並みを想像していた。しかし、現地に行ってみると想像していたような街並みとは違い、駅周辺はビルも多くとてもにぎわっていた。

2. 岡山調査で気づいたこと

ジーンズミュージアムに見学に行き、ジーンズの長い歴史を知り、もともとは作業をしやすいように大きめなものを着用していたということや、インディゴを使い染めることで害虫をよける効果もあったということ調べることができた。

3. 岡山を表すキーワード

- ・ジーンズ…ジーンズストリート、ジーンズミュージアムなどを訪れ、ジーンズの生産が盛んであることが分かった。
- ・塩田…ジーンズストリートの途中にある、「旧野崎家跡」を訪れた。昔は海を埋め立て塩田をつくり製塩業が盛んに行われていた土地であったことが分かった。とても見どころがあり昔の倉敷市をイメージすることができた。
- ・桃太郎… 童話桃太郎の銅像が駅にもあり、世界にも発信されている桃太郎ジーンズがモノづくりブランドとして有名である。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

旧野崎家や桃太郎など歴史的な文化や良さを残し伝えながらも、ジーンズというアメリカンで近代的なモノで発展を続けているところが、この地域の強みだと思った。

5. デニムと久留米緋の共通点

まず色が近いという共通点がある。ジーンズも久留米緋も藍色を使用している。そして、デニムと久留米緋はどちらも人の手間がかかっており、職人技が見られるところが共通している。近代的でアメリカンなイメージのデニムと古風で和のイメージの久留米緋とは全くテイストが異なるが、どちらにもただの衣服としての役割だけでなく、害虫を避ける効果や整腸作用、繊維を強くする効果などもあり、染めるための原料が大きな効果を果たしているところが共通している。

1. 岡山に来る前のイメージ

岡山に行く前は、どの位置に岡山があるのかさえも正直わかっていなかった。しかし、岡山の学生と意見交換をした際に、岡山は日本のデニムづくりの発祥の地であり、歴史が長いということから、デニムの街というイメージを持つようになった。その他にも、桃太郎のゆかりの地ということで、桃太郎ときびだんごが有名というイメージもある。

2. 岡山調査で気づいたこと

岡山での見学を通して気づいたことは、まず岡山駅周辺がにぎわっていたことである。若者がショッピングを楽しむことのできるイオンやその他のデパートが駅近くにあり便利である。

次に、デニムの発祥の地ということで児島ジーンズストリートやジーンズミュージアムなどのデニムに関するスポットが充実していることである。児島ジーンズストリートは近くに旧野崎家があるためか古風な風情を感じられる町並みが、観光地らしいイメージになっていた。しかし、販売されているデニムの単価が高く、学生が購入できる金額としては手が届くものではなかった。

また、岡山の街は、行き交う人があいさつをよくしてくれ、とても感じがよかった。岡山の学生と交流し、岡山の人はすごく親しみやすい人が多いという印象を持った。

3. 岡山を表すキーワード

キーワードの一つ目はデニムである。岡山はデニム発祥の地ということで工場や店舗がたくさんあるからである。

二つ目は倉敷市である。倉敷市は観光名所として有名であるが、旧野崎家などではゆったりとした時間が流れており、もう一度行きたいと思わせる空間があった。

三つ目は、瀬戸内海である。瀬戸内海に面しているため魚介類が豊富でおいしいという特徴がある。

4. 他の地域と比べての岡山の強み

デニム発祥の地として、ジーンズミュージアムなどを作り、いろんな人に伝えようとしているところが良いと思った。また、ジーンズ作り体験もできるため、見るだけではなく体験もできるところが良い。歴史的な建造物が多く、風情を感じられ散策にはちょうどよい場所が多かった。

産地コラボレーション演習
ペアインタビュー記事

岡山から見た久留米の印象

～大森 まなみさんの場合～

今回初めて久留米を訪れた大森まなみさん（中国デザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 全く知らない、というのが最初の印象でしたね。福岡市や博多などの都会は知っていますが、久留米市は研修先が決まっても見当もつかないというのが正直な感想です。



Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

— A まず、建築物の造形がきれいであることです。形の良い建物が並んで見栄えは良かったです。しかし、久留米市広報のパンフレットは全然だめでした。高齢者の方は喜びそうなところは多く載っていますが、我々若者にピンとくるような場所は少なかったです。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 最初に「交通」。車ではなく利便性のほうですが、西鉄、JR両駅ともその駅から主要の場所へのアクセスに乏しく、またはつきりとはわかりづらかったです。次に「観光」。先ほど述べたとおり駅からのアクセスのほかに、そこから行ける観光地への行き方がわからなかったのは良くないですね。しかし、何事にも「一生懸命」に取り組む姿勢は何よりよかったですと思います。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A まだ一日の前半では見つけられませんが、一つだけ挙げるとするならば、私の想像していた場所より汚いところはなく、とても清潔であること

見受けられます。

Q 本日の感想をお願いします。

— A とにかくラーメンをたくさん食べました。本当においしかったです。久留米市に関しては、地域の皆さんと連携してもっと盛り上げるべきだと思います。個人的にはイメージキャラクターの「くるっば」をもう少し流行りのゆるきやらに近づける努力をするべきだと思いますね

◆インタビューを終えて

手厳しい意見をたくさんいただきました。自分たちからしてみたら当たり前のようである観光地も旅行者から見れば全く見知らぬ土地であり、そこまでの積極的なアプローチと町の環境保全という課題が浮き彫りになったと実感しています。

（文責・馬渡祐弥・

久留米大学文学部情報社会学科3年生）

岡山から見た久留米の印象

〜小野 尚人さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた小野尚人さん（写真右・中国デザイン専門学校1年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



— A 久留米のことは正直あまり知りませんでした。福岡というイメージが強くて、都会だと思っ
ていましたが、実際は都会というより、ご飯がおいしくゆったりとした場所という印象でした。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 久留米には初めて来ました。高良大社に行きましたが、景色がとても綺麗だと感じました。また、久留米大学には大人っぽい人がたくさんいるということでも印象的でした（笑）

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 久留米のキーワードはまず、ラーメン、焼き鳥、高良大社といったグルメの面です。今日のお昼にラーメンの龍野家に行き、ラーメンを食べましたが、とても美味しかったです。夕飯の焼き鳥が楽しみです。そして、もう一つは久留米大学です。大学がとても大きくて驚きました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米の一番良い所は景色です。高良大社に行った際に一番上まで階段を上り見た景色はとても綺麗でした。久留米を一望することができます。

した。また、最初に行った石橋美術館も所々に綺麗なバラがあり印象的でした。その他にも、久留米は松田聖子をはじめとするたくさんの方の芸能人がいます。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 久留米を観光しましたが、とても楽しかったです。最初は全く久留米のことを知りませんでしたが、色々なことを知っていくうちに、とても楽しく回ることができました。一番のお気に入りにはなんといっても久留米の景色です。

◆インタビューを終えて

小野さんは、久留米の景色をとて気に入ってくださったようでした。最初は全く久留米のことを知らなかったと話していた小野さんですが、久留米のことを少しでも知ってくださり、とても嬉しかったです。残りの1日、もっとたくさん久留米の魅力について知っていただき、久留米のことをもっと好きになって欲しいと感じました。とても楽しくインタビューをすることができました。

（文責・山本紗也子）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

雲岡 夏未さんの場口

今回初めて久留米を訪れた雲岡夏未さん（写真左・中国デザイン専門学校1年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



A このプロジェクトを知るまで、久留米のことは正直何も知りませんでした。久留米というより、福岡の博多というイメージがとても強かったです。

Q 今日、久留

米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

A 久留米市は自然が豊かという印象がとても強いです。高良大社に行きましたが、そこから市内を一望することができ、その景色がとても素晴らしかったです。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

A 久留米について今まで知る機会がありませんでしたが、今回初めて久留米絣の資料館を見学し、高良大社の景色を眺めることができました。自然と久留米絣がとてもキーワードになると感じました。また、久留米大学には面白い人がいるということも感じました（笑）

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

A 今回初めて久留米に来ました。久留米に到着し、最初に思ったことは、のどかな、ということ。都会のように賑やかというよりは、田んぼに囲まれた自然の町だと感じました。実際に久留米の町をバスで通ると、どこか親近感がわくような場所でした。

Q 本日の感想をお願いします。

A 今回の久留米観光はとても楽しかったです。そして、久留米大学の生徒、先生方は優しくだなという印象を受けました。

◆インタビューを終えて

雲岡さんは、とても明るい性格で、インタビューをとても楽しくすることができました。久留米訪問は初めてとのことでしたが、久留米はいいところですねと言っていたきとても嬉しかったです。岡山の専門学校では、洋服のデザインをし、製作するとのこと、形は違いますが、情報社会学科の、情報をまとめ、加工・分析し、発信するというコンセプトに少し似ているなと感じました。彼女にもう少し久留米のことを知ってもらいたいと思いました。今回は時間が限られているので、ぜひまた久留米に来ていただきたいと感じました。今回は私が岡山に行くことになっていますので、岡山の魅力についても知っていくことができればいいなと思っています。

（文責・山本紗也子）

久留米大学文学部情報社会学科3年生

岡山から見た久留米の印象

〜齊藤 楓さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた齊藤 楓さん（中国デザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 名前は聞いたことがありましたが、漢字でどう書けばいいのか分からないほど、久留米について何も知りませんでした。その中でも印象としてあったのは食べ物がいっぱいということだと思います。



Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A お昼に高良大社を登ったのですが、自然が豊かで街並みものどかだと感じました。また、建物やビルの雰囲気も岡山と似ていたので、初めて来た場所ですが落ち着きました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 「タイヤ」です。久留米大生の方も自己紹介で何人かおっしゃっていただきましたが、「ブリジストン」発祥の地であるからです。また、午前中は石橋美術館を訪問したのですが、そこもブリジストンと関わっているのので、久留米は「タイヤ」の街だと思っています。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思っているがあれば教えてください。

— A お昼に「飯に「龍の家」という久留米大生おすすめのラーメンを食べたのですが、それがとても美味しかったです。なので、久留米のいいところはラーメンが美味しいところです。

Q 本日の感想をお願いします。

— A このプロジェクトに参加する前は久留米について何も知らなかったのですが、今日久留米市内を廻ってたくさん学ぶことができました。たとえばラーメンや焼き鳥などの食べ物も美味しいということ、久留米の歴史や作り方の工程、高良大社がある高良山をはじめとした自然が豊かであるということです。また、中国地方と九州地方でも離れた地域ではありますが、このように学生同士で交流できたこととてもいい経験が生まれました。

◆インタビューを終えて

今回のような地域交流を通してでないと、岡山のファッションデザインを専門とした学生と関わることは滅多に出来ないことだと思います。ある種の異文化交流ができ、とても刺激のあるお話が出来ました。また、インタビューを通して久留米の良いところを岡山の学生から学ぶこともできました。

（文責・澤岷 夏海）

久留米大学文学部情報社会学科三年生

岡山から見た久留米の印象

〜阪野 春香さんの場中〜

今回初めて久留米を訪れた阪野 春香さん（中国デザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



—A 畑がたくさんあって、田舎なイメージでした。福岡に来るのははじめてで「久留米」という名前、

町を今回、はじめて知りました。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

—A 高良山の階段を上った展望台みたいな所から町を見たのですが、畑ばかりで「田舎」というイメージだったのですが、意外と家が多くあるなと思いました。階段は、少しきつかったです。景色が綺麗でとても癒されました。

みなさん口を揃えて「食」が美味しいとおっしゃっていた通りにラーメンがとても美味しかったです。私は、ラーメンが苦手なのですが、久留米のラーメンは美味しく食べることができました。岡山のラーメンより美味しかったです。

はじめて久留米耕を見たのですが、細かい作業で、手間暇かけていることがわかりました。職人技ですごくかっただす。昔からの伝統を感じ、機械じゃだせないものだと思います。そこで、くるめんべいを試食して美味しかったので、お土産として買いました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

—A ラーメン美味しい、自然がいっぱい。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

—A 食べ物がおいしい所だと思います。また、自然が豊かで、空気も綺麗な所だと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

—A 久留米のいろんな所がわかってよかったです。柿狩りをしたことがないので、明日の柿狩りがとても楽しみです。明日も一日よろしくお願ひします。

◆インタビューを終えて

阪野さんは、人見知りもあつたと思いますが、一生懸命言葉を考えて今日の感想、久留米の印象を話してくれました。苦手だったラーメンを久留米にきて食べて「苦手を克服できた、美味しかったです」と笑顔で話してくれて嬉しかったです。

（久留米大学文学部情報社会学科四回生）

久貝 理奈

岡山から見た久留米の印象

〜佐藤 ほんのかさんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた佐藤ほんのかさん（中国デザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



— A 松田聖子と神田沙也加の出身地のイメージがありました。その他には久留米は少し田舎というイメージがあり、自然がいっぱいで、空気が良いと思っていました。あとは、久留米に行く前に先生達からラーメンの話はきいていたので、ラーメンのイメージはすごくありました。

Q 今日、久留米市内を員外して、何が気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 久留米に来る前は、久留米の人たちは方言がすごく強いと思っていました。しかし、そこまですり方は気にならなかったです。そして何よりラーメンがおいしかったです。今まで食べたラーメンの中でも上位に入る美味しさでした。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A やはり、「ラーメン」です。あとは「高良大社」です。高良大社のから見た景色には感動しましたので、とても印象に残りました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A やはり「飯が美味しい」ということです。「

んな美味しいものを毎日食べられて羨ましいです。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 久留米には初めて来たけど、すごく楽しかったです。また、久留米は久留米餅や高良大社など歴史的にも深い街だと思いました。今回は研修で来たのでゆっくりは出来なかったですが、今度は是非、プライベートで行きたいと思いました。

◆インタビューを終えて

今回佐藤さんにインタビューを行って思ったことは、久留米を知らない人にとっては、久留米はやはり「ラーメン」が美味しいというイメージが思い浮かばなかったということです。しかし、今回の研修で、久留米餅や、高良大社を見て、歴史や伝統を大切にしていることを知れたという声がありましたので、久留米を盛り上げるためには、歴史的な面をもっと出していったら良いと思いました。

（文責・田中しおり）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

〜杉谷 茉耶さんの場口〜

今回初めて久留米を訪れた杉谷 茉耶さん（中国デザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A おいしい食べ物がたくさんあるといった印象が強かったです。また、藤井フミヤさんや松田聖子さんなど昔のアイドルの出身地で、芸能人が結構輩出されているという印象がありました。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 坂本繁二郎さんや青木繁の建造物が残っているところが、古き良き時代を感じさせてくれて印象に残りました。新しいものを取り入れるのも重要ですが昔のものを保存しておくこともまた、重要であると気づかされました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 「ゆったり」です。町並みや人もゆったりしているのどかだと思えます。あとは「ラーメン」です。お昼に食べたラーメンが美味しかったのと、ラーメン発祥の地だと聞いたからです。お土産もパッケージが可愛いラーメンを買いました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米餅や、先ほど話した坂本繁二郎の旧居住地になどの昔の伝統が残っていて、しっかりと保存されているところが良いところだと思います。このような伝統は大切なのですと受け継がれていってほしいと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 久留米に対して全く知識がなかったのですが、今回のプロジェクトで久留米の良いところを知ることが出来ました。また、普段は小さな教室で授業をしているので、久留米大学にきて教室がきれいで驚きました。大学の雰囲気も少しは味わえたかなと思います。

◆インタビューを終えて

今まで、美術系の学生と関わったことがなかったのですが、このようなインタビューを通してお話しすることが出来て良かったです。やはり、石橋美術館などに興味を持ったそつで、感性が豊かで羨ましいと思いました。伝統工芸品に対しても観点が深くて凄いいと思います。

（文責・澤岷 夏海）

久留米大学文学部情報社会学科三年生

岡山から見た久留米の印象

～高山 遥奈さんの場合～

今回初めて久留米を訪れた高山 遥奈さん（中国デザイン専門学校1年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 久留米のことはこの研修で知ったのですが、久留米って名前が可愛いなと思いました。なので、久留米に来るまではこれといったイメージが浮かばなかったのですが、実際に今日来てみて、高良山みたいな自然もありつつ、建物もあって、

自然と都会が隣り合
わせで、いい街だと思
いました。

**Q 今日、久留米市
内を見学して、何か
気づいたことや印象**



に残ったことはありませんか？

— A 高良大社に行った際に展望台から久留米の街を見たのですが、意外と高さがあって驚きました。そして、龍の屋で食べたラーメンがとてもおいしかったです。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 「濃い」です。私がこのキーワードを選んだ理由は二つあります。まず、一つ目は、お昼に食べた龍の家のラーメンの味が濃かったということです。岡山のラーメンの味と違ってトンコツが濃くておいしかったです。二つ目は、久留米にはきれいな自然や古い歴史や文化などたくさん魅力が詰まっていて濃い街だと思ったことからつけました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米という地名にとってもなじんでいていいねと思いました。久留米は、新しいものも取り入れている一方で高良大社をはじめとする神社などの古いものも残っていて、バランスがとてもいい街です。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 今日一日、とても楽しかったです。都会過ぎず、少し田舎っぽいところに親近感がわいて落ち着きました。また、久留米絣の資料館が面白かったです。藍染めの工程や実際に織機を目の前で見ることができて、いい経験になりました。ぜひ、また機会があれば、ゆっくり見て回りたいと思いました。



◆インタビューを終えて

今回、高山さんのお話を聞いていて、何度も自然と都会のバランスが良いという言葉が出て、改めて久留米は住みやすい街なのだなと思いました。今、久留米の都市部は新しくシティプラザを建設するなど新しい取り組みをしているので、ぜひまた新しい久留米を見に来てほしいです。

（文責・田中未紀）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

～ 田中 梨菜さんの場合～

今回初めて久留米を訪れた 田中 梨菜さん（中国デザイン専門学校 一年生）に久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 最初は全然知らなくて地名の漢字も読めなかった。学校で行くことが決まって、その時にもらったパンフレットでラーメンが有名ってイメージをもった。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

— A 都会より感じました。やはりラーメンの印象が強い。久留米出身の有名人の名前は知っていたけど、出身地が久留米とは知らなかった。有名人、有名企業を輩出していると気づいた。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A ラーメンです！豚骨ラーメンは昼に初めて食べました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 気候があつたかく、自然が溢れていて、人が温かい。自分のところと違い、笑いが溢れていて愛想がいい。自分のところは不愛想な人が多いと感じた。

Q 本日の感想をお願いします。

— A もっと、ゆっくり久留米の街を見たかった。次は、個人的に来たいと思った。

◆インタビューを終えて

みんなの印象が一日しか無かったためか、偏っていた。あとは全体的に良い印象ばかりだった。明日にはまた印象が変わるのではないかと思った。

（文責・久留米大学文学部

情報社会学 3 回生 部 飛濤

国際文化学科 2 回生 大石 斉寛）

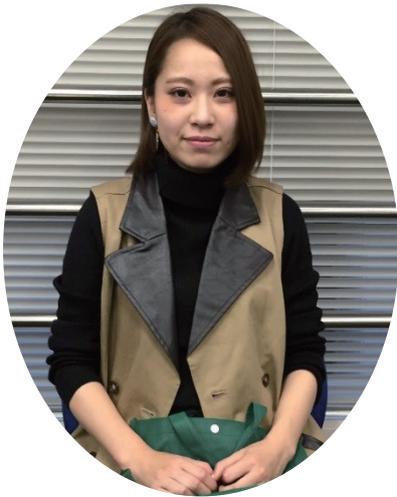
岡山から見た久留米の印象

〜谷川 綾穂さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた谷川さん（中国テザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

—A— 正直、「久留米市」という地名は聞いたことがなかったです。久留米、というより福岡博多、というイメージがあったのでなんとなくラーメンや、餃子など福岡で有名な食べ物中心のイメージを私は持っていました。



Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

—A— まず、久留米市は全体的にのどかな印象を受けたことです。

次に、人柄がみんなフレンドリーであり、優しくかったことです。そして自分がある岡山県と比べ道が大きく整っていることが印象に残りました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

—A— 私の思う久留米市を表すキーワードは、「ラーメン」と「久留米餅」です。

まず、ラーメンは「龍の家」でおいしいラーメンを食べたことが印象的です。久留米餅に関しては、機織り物の理解はある程度ありましたが、久留米の「餅」に関する知識はなく、その製造方法や歴史に触れ、大きな印象を残しました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

—A— 先ほども言った通り、町がのどかで人柄がよいというところです。店員や駅員など関わった

人たちがみなにこやかである、という印象を受けました。他にも、以前訪れた東京や名古屋、大阪などの都会と比べ、人口が少ない分駅構内がとても広く感じて快適でした。

Q 本日の感想をお願いします。

—A— 本日は朝から出てきているのもあってか、皆さんがちゃんとプランを立てているものをあまり見ることができませんでした。

明日のスケジュールにはもっとしっかり久留米のことを知るために精一杯取り組んでいきたいと思っています。

◆インタビューを終えて

初めて久留米市を訪れた方にこれだけの印象と思い出を作れたことに感動しています。これだけでなく、皆さん全員に「ほとめき」の街・久留米をもっとより知っていただけたら良いな、思います。

（文責・馬渡 祐弥）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

〜横田美帆さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた横田美帆さん（中国テザイン専門学校一年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 久留米に来たことはありませんでした。福岡の博多駅には来たことがあります。久留米に対して、象は全然ありませんでした。地名だけ聞いたこと



きやかなまちだと想像していました。

象は全然ありませんでした。地名だけ聞いたこととありますが、久留米は福岡と似ている感じかなと思っていました。高いビルとか、人が多くて、

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたこ

とや印象に残ったことはありましたか？

— A 今日の見学は短かったので、印象は薄いのですが…まずは久留米のラーメンがおいしい。そして、高良大社の景色がいいです。石橋文化センターもすごくいいです。美術館の中には、たくさんの絵が展示されていました。隣の坂本繁二郎のアトリエを見ました。画家の家はそんな感じですが、バラもいっぱい咲いて、結構きれいでした。時間はちよつと短かった気もします。もし時間があれば、もっとゆつくり見たいと思いました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A キーワードでは思いつきませんが…、久留米は親近感のある伝統的まちだと思います。ラーメンもおいしい、景色もきれい。落ち着く…、岡山と同じ平和な感じですよ。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米は初めてだから、そして今日の見学もちよつと短いので、ラーメンと伝統文化のことしかわかりません。個人的には人が多いところがありません。好きではないから、久留米のような静かなまちは結構好きです。美味しい食べ物もありますし、いい景色

いいです。そして、久留米餅とそれを作る技法はとても素晴らしい。久留米餅は昔のファッションかなと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 一言で言うなら、楽しかったです。久留米餅資料館で見学するときに、二人、機織り体験をしたじゃないですか。私はできなかったのですが、すごく楽しそうだなと思って、ちよつと羨ましかったです。手で作ることが好きだから。そして石橋文化センターの美術館の美術品も好きなので、チャンスがあればまだ見に行きたいと思っています。一日、本当に楽しかったです。明日の見学も楽しみにしています。

◆インタビューを終えて

今回のインタビューを通じて横田美帆さんの目に映る久留米の印象を知ることができました。予備知識がない状態で久留米に生まれ、今日の見学で石橋文化センター、高良大社、久留米餅資料館などの久留米代表的なところに行くことにより久留米の魅力伝えてくれました。次回私たちは岡山に行くときにもきちんと見学して、岡山の魅力を自分の言葉で伝えたいと思います。

（文責・盛立・久留米大学文学部情報社会学科3年生
杜敬鳴・久留米大学文学部情報社会学科4年生）

岡山から見た久留米の印象

～小笠原 葵さんの場合～

今回初めて久留米を訪れた小笠原さん（中国デザイン専門学校二年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを

持っていましたか？

— A 九州で一番自然あふれるところ。来たことはなく、あまり深くは知らなかったです。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

— A 歴史のある場所がたくさんありました。石橋文化センターや高良山、久留米耕資料館など久留米の歴史を感じることができました。高良山の上まで行く階段がきつかったです。油断すると落ちそうでした。そのきつい階段を登ると、久留米の街を一望することができ、とても綺麗でその景色が印象に残っています。昼食で食べたラーメンもおいしかったです。おいしかったので、家族にお土産として買いました。他にも、試食で食べた、くるめんべいがおいしかったので買いました。はじめにみなさんがおっしゃっていた久留米の印象と合っていて、食と自然、歴史がある街だと思いました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A ラーメン最高、おみやげ、自然がいっぱい、歴史がある、などです。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思

うところがあれば教えてください。

— A 景色がよくて、空気がいいところです。自然もたくさんあり、食べ物もおいしいところだと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

— A はじめて来たのですが、今日一日で様々な経験ができてよかったです。明日も、柿狩りや久留米耕の工場見学、紅乙女酒造見学など様々な体験ができると思うので楽しみです。後一日ですがよろしくお願いします。

◆インタビューを終えて

今年、成人を迎える小笠原さんは、ちよつと天然で、一生懸命インタビューに答えてくれました。家族にお土産を買った話をしている時がすく楽しそうでした。今日一日、食や歴史、自然と久留米のいいところを堪能できたようでよかったです。明日も、柿狩りや、久留米耕工場見学、酒造見学など久留米のよさを知り、また久留米にいききたいなと思ってくれたら嬉しいです。

（久留米大学 文学部情報社会学科 四回生

久貝理奈）

岡山から見た久留米の印象

水田 智美さんの場中

今回初めて久留米を訪れた水田智美さん（中国デザイン専門学校2年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



正 | A このプロジェクトが決まる前から久留米という名前は聞いたことがあったのですが、直どんな街なのかイメージができませんでした。以前、好きなアーティストのライブで博多には来たことがあるのですが、久留米は今回が初めてなので様々なことを吸収して帰りたいと思います。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

| A おもてなしの精神がすごいなと思いました。今日一日たくさん場所を見て回りましたが、どこに行っても温かく「ようこそ」という言葉とともに歓迎してくださって、とても嬉しかったです。また、高良大社に行った際に、鳥居があったのですが、ゾウの形をしていて、このような鳥居は初めて見たので、珍しいと思い、とても印象に残っています。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

| A まず一つ目は「とんこつ」です。これは龍の家で食べたとんこつラーメンのイメージです。久留米のとんこつラーメンは岡山のものより濃く感じました。二つ目は「絣織物」です。私たちの学校でも染物はしますが、久留米絣のような伝統的なものは初めて見たので、興味深かったです。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところが



あれば教えてください。

| A 本心に自然が多く、景色がきれいだなと思いました。今日見てもたくさんさんの絶景がありました。また、先ほども言った通り、久留米は温かい人がとても多いですね。こんな街は滅多にないと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

| A 今日一日、多くのことが学べて、いい経験ができました。久留米絣の糸のしくみを知ることができたのが一番勉強になりました。今日学んだことをこれからの学校生活でも生かしていけたらと思っています。

◆インタビューを終えて

今回、水田さんにお話を聞いていて、高良大社の鳥居がゾウの形をしていると聞いたときは驚きました。私も一年生の頃、ワークショップで高良大社を訪れましたが、鳥居の形まで目を配ることができませんでした。ぜひ、これを機に、私も高良大社を訪れて、ゆっくりと観察したいと思います。

（文責・田中未紀）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

〜葦田 聖人さんの場口〜

今回初めて久留米を訪れた葦田 聖人さん（中国デザイン専門学校三年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 前日にとんねるずのCMをみて初めて久留米を知りました（笑）、それでラーメンのイメージがありました。私はラーメン好きでよく食べます、だから今回久留米に来ることができて嬉しいです！

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 都会具合は岡山と一緒くらいで、自然もあってよいですね。高良大社からの景色がすごく良くてとても印象に残っています。夜に来たらもっと綺麗だと思うので、夜にも来てみたいですね。

久留米市内を周っていて思ったことは、マツクの色が岡山のマツクと違って黄色が多いように感じました！岡山は赤色が多いんです。そのような街の違いもあるので面白いです。



Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A ①ラーメン②景色が良い③自然④歴史が

ある（久留米餅・ラーメン）

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 自然・景色が良くていいです。そして、久留米餅やラーメンなど歴史もあるところがいいです。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 朝は5時起きで大変でしたが、高良大社からの良い眺めと美味しいラーメンを食べて元氣がもらえました！

また、久留米の歴史ある久留米餅を見に行き、初めて知る文化に触れられてよかったです。久留米大学の方とも方言の違いなどを話し楽しかったです。明日の工房にお邪魔させていただくのを楽しみにしています。

◆インタビューを終えて

インタビューを通して、久留米と岡山の街のこゝと、お互いの学校について話すことができ、久留米の良さを改めて知ることができました。また岡山に興味が増え、次回の岡山研修がとても楽しみにしました。

（文章・本多 明季子・久留米大学文学部情報社会4回生）

岡山から見た久留米の印象

〜三宅康太さんの場口〜

今回初めて久留米を訪れた三宅康太さん（中国デザイン専門学校二年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A
久留米のことは知らなかったですが、ムーンスターがあるということは知っていました。



Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A
観光地が多いように感じました。それからビルが多いですね。大きい建物がたくさん。お昼に食べた久留米ラーメンもとても美味しかったです。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A
さい。気温が暑い。寺。山。筑後川。この四つですね。久留米は岡山に比べて、少し暑いですね。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A
久留米の人はとても優しいです。僕たちを迎えてくれるおもてなしもすごいなと思いました。それから、話すときの「なまり」を感じ

ました。岡山と比べて、「なまり」が強いように思えます。僕は博多弁に興味があるので、本物の博多弁をたくさん聞きたいと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

— A
久留米は思っていたよりも田舎だと感じました。ただの田舎というより、田舎の中でも都会よりだと思いました。自然がたくさんで、食べ物も美味しくて、文化も豊富で素敵な町だと思いました。明日も楽しみです。

◆インタビューを終えて

久留米は都会よりの田舎だ、と聞いて他県の方から見ても住みやすい町であるのかな、と思いました。岡山よりも気温が高いことや、なまりの違いなど、岡山と久留米の違いを聞くことができ、おもしろかったです。もっと違いを探し、岡山と久留米それぞれの特徴を発見して理解を深めたいと思います。

（文責・吉居千秋）

久留米大学文学部情報社会学科二回生

岡山から見た久留米の印象

須波 萌さんの場合

今回初めて久留米を訪れた須波萌さん（中国デザイン専門学校二年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

A 最初は、久留米のことを知らなかったです。久留米のことを知ってる先輩に聞いたら、ムーンスターのある所だときいたのでムーンスターの



イメージが強くなりました。憧れている女性が福岡の人で、その人がSNSに投稿する写真や情報をよく見ていたので、福岡にはいつか来たいと思っていました。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

A 岡山と比べて田舎すぎるわけでもなく都会すぎるわけでもなく、町の雰囲気似ていると思いました。他には、一つ一つの建物が大きくてデザイン性の高い建築物が多いなと感じました。久留米大学の校舎もとても綺麗で感動しました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

A ブリヂストーンや、久留米ラーメン、ムーンスターの三つですね。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

A 久留米は交通量が少ないと感じました。岡山だと交通量が多くて、よく車が混みます。あとは、高良大社に行く途中に思ったのですが、山道がきちんと舗装されています。岡山では山道はそのままにされていて、中央線も消えかかっていたりし

ます。

Q 本日の感想をお願いします。

A 新幹線に乗れば、二時間で着くので岡山と福岡は来やすい所に位置していると思いました。岡山から大阪は電車だと一時間、車でも二時間で、行ける距離なのでよく大阪に出かけてしまうので、反対にある九州に興味を持っていました。今回このプロジェクトで福岡に来ることができて嬉しいです。欲を言えば、もう少し自由時間も欲しいと思いました。なので、今度は自分たちで福岡に来たいと思います。

◆インタビューを終えて

久留米のことを知らなかったと言われて、久留米の知名度の低さを実感しました。けれど、ムーンスターは知っているときき、久留米のことを広めるきっかけにムーンスターを利用できるのではないかとひらめきました。岡山と久留米の違いを、岡山を訪ねて確認してみたいと思います。

（文責・吉居千秋）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

岡山から見た久留米の印象

～背山 知生さんの場合～

今回初めて久留米を訪れた背山 知生(せやまともき)さん(中国デザイン専門学校2年生)に、久留米の印象について語っていただきました。(平成二十七年十月二十三日実施)

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



— A まず、福岡県ということだったので、「ガヤガヤとぎやかで都会かな？」と、いうイメージでした。

ぱり久留

米といっても福岡県というイメージなので、暴力団とか怖いイメージも少しありました。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 午前中、石橋文化センターや、高良山へ行って、「写真を撮りたくなるような風景が多い町だな。」と感じました。

それと、自分の地元と全然違うのに落ち着くと感じました。何を見て落ち着くと思っただかというところ、雰囲気と街並み、きれいな建物とか、木が多いところで、そう感じました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 久留米のキーワードは「歴史」だと思います。

午前中に行った石橋文化センターで坂本繁二郎のアトリエへ行っただけれど、その中に昔の写真がそのまま残っていたりして歴史を感じたし、久留米耕とか昔の伝統も残っていて、久留米は「歴史の町」と、いうイメージがしました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 住みやすそうなのところが「いいね」と思います。

町がきれいで、落ち着くし、人もやさしい人が多いからそう思いました。久留米という町はいいところだと思います。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 久留米という町は全然知らなかったけれど、今日一日、色々なところを周って話を聞くと、歴史が深く、伝統を大事にしている町だなと思いました。今日はとても楽しかったです。

◆インタビューを終えて

久留米のことを全く知らなかった方に「久留米の最初のイメージ」と、「半日過ごして感じたイメージ」を聞くことができた。これはとても貴重な経験だと思う。普段暮らしていると、感じることもできない「身近にある」久留米の良さを再認識することができた。

今回のプロジェクトで、他の地方の人たちと関わり、それぞれの住んでいる地域について語り合うことは、自分たちの住んでいる地域を知ることに関わることが分かった。

(文責・長友 亮太)

久留米大学文学部情報社会学科3年生

岡山から見た久留米の印象

〜種草 結花さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた種草 結花さん（中国デザイン専門学校2年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 「久留米」という地名は知っていましたが、どんな土地なのかは知らなかったのので、「博多のおまけ。」というイメージでした。もともと、伝統工芸や歴史に少し興味があったため久留米餅は知っ

ていました。あと久留米ラーメン。でも、その二つくらいしか久留米と聞いてイメージできるものではありませんでした。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

— A 久留米市は岡山と違い町に文化的な物が残っていることです。岡山県には岡山城があります。しかし、その周りには鉄筋コンクリート、駅前にはビックカメラがあり、文化的な一面が見られません。だからこそ、久留米の街並みに自然と溶け込んでいる文化的なものがすぐ目にはいりませんでした。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 「住みやすそう。住んでみたい。」といキーワードが浮かびました。街全体が落ち着いた印象が持てるし、駅周辺が整備されているので利便性が良さそう。街から一歩離れると田園風景が広がっていて、すぐに自と触れ合う事ができるのでそう思いました。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 食べ物がとても「いいね」と感じました。久留米は食べ物に美味しいです。岡山県は果物など豊富なのですが、「料理」として考えると久留米のグルメはとても美味しいものばかりです。

Q 本日の感想をお願いします。

— A まず、久留米餅の機織り体験ができたことです。私は「ジーンズムリエ」という資格を持っており、工芸品に対してたいへん興味があります。その中で今日こうやって実際に機織り体験ができた事で日本人の「手仕事」という大切な部分を実感することができ、いい刺激になりました。

◆インタビューを終えて

さすが、デザイン専門学校の学生さんです。ジーンズと久留米餅の話になった途端、とても目を輝かせてお話ししてくださいました。このプロジェクト名にもある「地域の学び直し」という点において、こういう方々を日本はもっと大事にしていかなければならないと感じました。

（文責・梅野理子）

久留米大学文学部情報社会学科3年生

岡山から見た久留米の印象

〜岸田 心里さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた岸田心里さん（中国デザイン専門学校二年生）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二十三日実施）

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A バイトの後輩が久留米出身だったので、久留米は以前から知っていましたが、来るのは初めてでした。後輩からお土産でもらったお土産が久



留米ラーメンだったので、そのラーメンのイメージはありました。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 久留米餅の横糸と縦糸の緻密さが繊細で美しかったです。他には、龍の家で食べたラーメンと明太子とろろプリンがすごく美味しかったです。あと、久留米大学生がしおりなどを作ってくれて心遣いが素敵だなと思いました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 藍染、機織り、やきとり、おもてなしですね。食や服関係を表す言葉が多いです。ゆるきやらのくるっばは横から見た姿がシユールでした。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米は都会都会していないので、過ごしやすそうなところがいいと思います。高良神社など歴史を感じられる場所もあり、パワーをもらえた気がしました。風景もよく、岡山に似ているので親近感が湧きました。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 一日を通してフレッシュな気持ちになりました。久留米大学生と、久留米と岡山の情報を交換し合えてよかったです。久留米にいろんな場所に行くことができ、久留米のいいところを知るこ

とができました。

◆インタビューを終えて

岸田さんのインタビューを終えて、まず久留米という地名を聞いたことが驚きました。知ったきっかけは、お土産の久留米ラーメンのことで思いがけないもので久留米をアピールできるのだと感じました。また、一日を通して、久留米のおいしい食べ物、名所などを知ってもらえ、また満足してもらえてとても嬉しいです。他県の方から久留米をほめてもらえることで、久留米を再度いい街だと思ふことができました。インタビューの最中ゆるきやらについての話が盛り上がり、岡山ゆるきやらについても知ることができて、お互いの情報交換をすることができる良い場を与えていただいたと思いました。

（文責・和泉利枝）

久留米大学文学部情報社会学科四回生

岡山から見た久留米の印象

〜重知可子さんの場合〜

今回初めて久留米を訪れた重知可子さん（中国デザイン専門学校社会人速成科）に、久留米の印象について語っていただきました。（平成二十七年十月二三日実施）



Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？

— A 正直に言っていると、久留米は田舎だと思っていました。

岡山から見た久留米の印象

〜藤原 彩さんの場合です

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありませんか？

— A ラーメンがすごく食べやすいということですね。私はラーメンが苦手だったけど、久留米で食べたラーメンは美味しかったです。他には、久留米餅の作る工程をみて、あんなに手間がかかっているということが分かりました。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A 「大きい」です。移動中のバスの中で筑後川を見て、すごく大きな川で印象的でした。久留米大学の校舎もすごく広いので、私の中の久留米の印象は「大きい」です。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思っているところはあれば教えてください。

— A すごく住みやすそうな所が良いと思いました。九州新幹線も開通しているので、旅行にも行きやすいし、何より食べ物が美味しいので良いと思いました。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 苦手だったラーメンが食べることが出来るようになって本当に嬉しかったです。また、久留米大学生の人たちが優しい人達ばかりで楽しく研修することが出来ました。

◆インタビューを終えて

やはり久留米のラーメンは美味しいという声が聞くことができ、久留米のラーメンは全国に誇れるものだということを感じました。また、インタビューをしている際に重さんが「久留米は岡山の倉敷というところに似ていると聞いて、是非、倉敷にも訪れたいと思いました。」

（文責・田中しおり）

久留米大学文学部情報社会学科三回生

今回初めて久留米を訪れた藤原 彩さん（中国

デザイン専門学校(二年生)に、久留米の印象について語っていただきました。(平成二十七年十月二十三日実施)

Q 久留米に来る前、この街にどんなイメージを持っていましたか？



— A
久留米はなぜか名前だけは知っていました。多分やぐざ関係のニュースかなにかで名前を知ったんだと思います。久留米は暴走族発祥の地ということを知り、暴走族のイメージもあります。九州、博多に来るのは初めてです。

Q 今日、久留米市内を見学して、何か気づいたことや印象に残ったことはありましたか？

— A 道が広いことが印象に残りました。暴走族対策だということを知りました。あと久留米ラー

メンもおもしろかったです。ゆるぎやらのくるっばに会うことができて、横から見た姿がシュールだなと思いました。金の竹がすごく印象に残っています。

Q 久留米を表すキーワードがあれば教えてください。

— A やきとり、やぐざ、おもてなしです。やきとりが食べられるということを楽しんでいます。やぐざは有名ですね。

Q 他の地域と比べて、久留米が「いいね」と思うところがあれば教えてください。

— A 久留米は都会都会していないので、過剰にやすそうなところがいいと思います。高良神社など歴史を感じられる場所もあり、パワーをもらえた気がします。風景もよく、岡山に似ているので親近感が湧きました。

Q 本日の感想をお願いします。

— A 一日を通して久留米の食べものや、土地についてよく知ることができたと思います。初めての場所でしたが、久留米の人がみんな優しくしゃべりやすかったので好印象です。しおりなどを作ってくれたりおもてなしを感じられました。

◆インタビューを終えて

久留米を知るきっかけが、やぐざ関係とは予想外でした。しかし、全国ニュースなどで放送され、知名度を上げていくこともあるのだなと思いました。まさかの影響力でした。ゆるぎやらの話題になったときに、岡山のゆるぎやらについて話してください、どの県もゆるぎやらに力を入れているし、それぞれの土地の特性が出てくるのがわかり、岡山に行った際は会えるといいなと思いました。インタビューも楽しくすることができ、互いに情報交換することができたと思います。

(文責・和泉利枝)

久留米大学文学部情報社会学科四回生

平成 27 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業
岡山県をモデルとした中核的デニム・ジーンズクリエイター地域版学び直し教育プログラム開発と実証

事業報告書

平成 28 年 2 月

学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校
〒1700-0842 岡山県岡山市北区船頭町 12
TEL086-225-0791 FAX086-225-0792

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。